

日本立志編

名修身軌範
干河岸貫一著述

四



干河岸貫一著

第二編

日本立志文篇

壹店備有規範

版權所有 雙書房合梓

日本立志編序

余讀是書而喜感交至。不能自己。何也。以余之所為而同志之人有應之者也。歌者登壇奏技。而滿堂喝采。則未有不神揚色喜者。矧余之西國立志編印出逾萬數。而又有干河岸君此著。雖另開生面。而要不外于立志本旨。以扶植綱常。砥礪名節。崇忠厚而抑浮薄。獎廉勤而戒貪惰。其警世之意。既與余同。而其範圍則更加大。

天隈信常氏寄贈

門 53
530

千河岸貫一著

日本立志文庫

壹佰篇又規範

版權所有

雙書房合梓

日本立志編序

余讀是書而喜感交至不能自己何也以余之

所為而同志之人有應之者也歌者登壇奏技

而滿堂喝采則未有不神揚色喜者矧余之西

國立志編印出逾萬數而又有千河岸君此著

雖另開生面而要不外于立志本旨以扶植綱

常砥礪名節崇忠厚而抑浮薄獎廉勤而戒貪

惜其警世之意既與余同而其範圍則更加大

天隈信常氏寄贈

明治十六年九月一日

明治十六年九月一日

東京中村正直先生序

烏。余烏得不感喜乎。編者。荒野氏作日本品行論。以配余西洋品行論。今有此編出。而余之立志編。亦賴以不孤矣。傳曰。人之欲善。誰不如我。不其信笑乎。

明治十三年五月十三日

敬宇中村正直撰



日本立志編卷四目次

清廉ノ部

- 清廉ハ志操ヲ屈抑セザルノ基ナルコトヲ叙ス 初丁
- 第一 橘良基一清ヲ以テ治民ノ要術トナスナリト
語リタル事 二丁
- 第二 富小路右大臣自ラ朽ヲ執テ盟漱セシ事 四丁
- 第三 源雅定朝臣門庭寂聞タリシ事 四丁
- 第四 佐藤憲清世ヲ厭フタル事 五丁
- 第五 白拍子佛ノ前髪ヲ削テ潛カニ第ヲ出タル事 七丁
- 第六 釋高辨無欲ヲ以テ北條泰時ニ誨ヘタル事 九丁
- 第七 青砥藤綱祿ヲ増スヲ辭シタル事 十丁

第八 成瀬正成重祿ヲ固辭シタル事 十三丁

第九 藪内匠先登ノ功ヲ爭ハザリシ事 十四丁

第十 池田市郎兵衛功ナクシテ祿ヲ加フルヲ耻ヂタル事 十七丁

第十一 黒田彦右衛門功ヲ人ニ譲リタル事 十九丁

第十二 菴原助右衛門將首ヲ人ニ與ヘタル事 二十一丁

第十三 林新右衛門子孫ノタメニ祿ヲ食ムヲ否ミタル事 二十三丁

第十四 成瀬正一盈満ヲ以テ戒メト為シタル事 二十五丁

第十五 市橋長璉ノ後室ノ清介ナリシ事 二十七丁

第十六 佐藤塵也伯母ノ贈ル所ノ金ヲ辭シテ受ケザリシ事 二十九丁

第十七 伊藤一元ガ少欲知足ナリシ事 三十一丁

第十八 中井積徳ガ韓愈ヲ賤ミタル事 三十三丁

第十九 仙石氏ガ清廉剛勇ナリシ事 三十五丁

第二十 鹽道菴ノ清介ナリシ事 三十七丁

第二十一 小島蕉園金ヲ卻ケテ受ケザリシ事 三十九丁

第二十二 販魚者谷平遺金ヲ還ヘシタル事 四十一丁

日本立志編卷四

清廉ノ部

清廉ハ志操ヲ屈抑セサルノ基ナルヲ叙ス。貪汚ハ志操ヲ屈抑セサルノ基ナルヲ叙ス。清廉ハ貪汚ノ反ナリ。人清廉ナラザレバ、財貨ニ眩シ、榮利ニ迷ヒ、遂ニ其志操ヲ守ルヲ能ハズ。其身ヲ喪ボシ、其家ヲ亡ボスニ至ラン。故ニ古ノ明君賢相ハ、清廉ニシテ寡欲ナルヲ以テ、國ヲ治ムルノ秘訣トス。之ヲ以テ其威權ヲ貪ボラズ。萬葉ノ言ヲモ聽キ、布衣ノ士ヲモ禮遇ス。之ヲ以テ其聲色ヲ貪ラズ。飲食ヲ能フシ、宮室ヲ卑フシ。珍禽奇獸ヲ畜バズ。士庶人ト雖、亦何ゾ貪汚ニシテ、能ク一事一業ヲ成就スベキモノナランヤ。視ヨ夫ノ學業ニ從事シ、半途ニシ

テ發スルモノハ、一資半俸ヲ貪ルガタメニ、簿領ニ齷齪シ
テ、己レガ智識ヲ研磨スルニ違マアラザルナリ。夫ノ朝夕
ニ開店シテ、夕べニ閉肆スルモノハ、非常ノ巨利ヲ貪ルガ
タメニ、什一ニ安ンズル能ハズ、一朝蹉跌シテマタ如何に
スルヲ得ザルニ至ルヲ以テナリ。夫ノ一時令聞廣譽アリ、
聲價頓ニ低下シ、人ノ敢テ顧ミルナキニ至ルモノハ、虛名
空譽ヲ貪ルガタメニ、外面ヲ塗抹スル所ノ學識道德、容易
ニ剥落セルヲ以テナリ。夫ノ身縲紲ノ辱メヲ受ケ、鐵鎖其
足ヲ約シ、日々驅役ノ懲罰ヲ被ムルモノハ、貨財ヲ貪リ、食
色ヲ貪リ、以テ己レガ嗜欲ヲ充タサンガタメニ、父母ノ遺
骸ヲ辱シムルヲ忘レ、強竊盜ヲナシ、若クハ強姦等ヲ為
シタル罪犯ニ由テ、處刑セラレタルモノナリ。其他社會自

般ノ事、禍亂敗亡ノ基、喪身亡家ノ本トナル者、貪ニ原セリ
ルモノナシ。而シテ匹夫モ猶ホ三軍虎旅ノ兵ニマサレ所
ノ不技不撓ノ志操ヲ持スルノ本ハ、一廉清ニアリ。苟モ廉
清ノ守操アル、富貴モ淫スルニ足ラズ、貧賤モ犯カスニ足
ラズ。視ヨ周ノ武王、殷ヲ征スルニ方リ。諸侯期セズシテ
會スル者八百、馬ヲ叩テ之ヲ諫メタルモノハ、獨リ伯夷叔
齊、ミ、而シテ八百人ノ諸侯ハ誰ナルヤ。一人モ其姓名ヲ
知ルニ由シナシ。孤竹君ノ二子、首陽山ニ餓死セルモノ
ハ、其清廉獨潔ノ名ヲトメ、千載ノ下、汗青ヲ照ス。廉ト
貪トノ得失、亦以テ見ルベシ。然ルニ世間廉清ナル者ハ至
テ寡ク、貪汚トルモノハ極メテ多シ。況ヤ輓近ニ於テヤ、
爭利ノ風益甚シク、廉清ナル者ヲ見テハ、之ヲ訾笑シテ偏

固トナシ、競名ノ俗月ニ熾ニシテ、謙退ナル者ヲ目シテハ、
之ヲ嘲罵シテ頑陋トナス。故ヲ以テ平素不屈不撓ノ志操
ヲ持スル者ナクシテ、廉耻漸クマサニ地ヲ掃ハントス。豈
ニ慨然タラザルヲ得ンヤ。吾頃古來賢人哲士等ハ、廉清寡
欲ナル行事ヲ輯録シ、此ヲ標掲スル所以ノモノハ、他無シ、
其風ヲ聞クモノヲシテ、貪汚ヲ變ジテ清廉トナサシメ、以
テ風化ノ萬一二裨補スル所アラシトヲ希望スルノミ。
第一 橘良基一清ヲ以テ治民ノ要術トナスナリト語
リタル事

橘良基ハ左京ノ人。左大臣諸兄ノ裔孫ナリ。良基幼ニシテ
岐嶷早ク風概アリ。治體ニ鍊達シ、廉清ヲ以テ自ラ守ル。初
ノ左京必進ニ除セラレ。數年ニシテ民部必丞ニ遷ル。天安
ノ初二於テ事ニ因テ旨ニ忤ヒ、天皇怒リテ其官ヲ褫奪セ
ラル。貞觀中、復タ起テ木工少允トナリ。式部丞ニ遷リ、從五
位ニ叙シ、伊豫常陸越前丹波信濃ノ守介ヲ歷タリ。治當時
ノ最ト稱ス。仁和中年六十三ニシテ卒ス。良基素ヨリ清貧
ヲ甘ム。シ朴素ニ安ム。ズ。家ニ甑石無シ。中納言在原行平、賻
スルニ絹帛ヲ以テスルニ由リ、僅カニ殯葬スルヲ得タ
リキ。其五別ニ歷任スルヤ、罷メ歸ルゴトニ資糧ヲ載セズ。
其子孫ニ訓誨スルニ身ヲ潔ハスルヲ以テ本ト為ス。旨
趣ヲ以テス。人アリ嘗テ牧民ノ要術ヲ問フ。良基對テ曰ク。
百術アリト雖モ一清ニ如カザルナリト。亦以テ其平生守
ル所ノ如何ヲ見ルベシ。
櫻所子曰ク。昔時王政ノ隆ナル。廉吏其人ニ乏シカラズシ

テ能ク熙々皞々ノ太平ヲ致シタリト雖氏中ニ就テ良基
ノ如キハ後世地方ノ官吏トシテ人民ニ親シク接スルモ
ノ、龜鑑トナスベシ抑モ地方ノ任ヲ負ビ其管理ニ屬ス
ル所ノ人民ノ望ミヲ収ムルノ術ハ曰ク勸學勸農勸高ナ
リ曰ク道路橋梁堤防ノ修築ナリ曰ク警察病院ナリ其他
諸般ノ事務ニ就テ部民ヲシテ悦服セシムベキ所ノ方術
多カルベシト雖氏唯一ノ清廉ヲ闕クハ惠ハ春風ノ如
ク化ハ膏雨ノ如クナラントセシモノモ忽チ變シテ怨嗟
ノ聲ト為ラン然バ則テ百術アリト雖氏一清ニ如カサル
ノ言果シテ信ナラズヤ特リ地方ノ官吏ノミナラズ農工
商估諸種ノ業ヲ營ムモノト雖氏亦其業務ノ繁榮ヲ計ラ
ンハ未ダ嘗テ貪汚ニシテ詐術黠策ヲ逞フスルニ由テ

其志望ヲ果タシ遂ゲタル者ハアラスマタ是百術アリト
イヘ氏一清ニ如カサルモノニ外ナラザルナリ
第二 富小路右大臣自ラ杓ヲ執テ鹽漉セシ事
藤原顯忠ハ左大臣時平公ノ第二子ナリ天徳中官ヲ歷テ
右大臣ニ至リ從二位ニ叙セラル薨ズル年六十八詔シテ
正二位ヲ贈クル富小路右大臣ト稱スルハ是ナリ公生平
廉清ヲ尚トビ節儉ヲ重ンズ第宅器什ヨリ衣服飲食ニ至
ルマデスベテ朴素ナラザルハナシ鹽漉スルニ盤ヲ用ヒ
ズ自ラ杓ヲ執テ灌洗ス大臣タルニ至テモ出ルニ前驅ナ
ク騶從亦甚ダ歎シ其大饗ヲ設クルヤ治具簡約ニシテ堂
燕一モ崇飾スル所無カリシトイフ
櫻所子曰ク時平公道真公ト並ビニ左右大臣トナリ道真

ヲ構陷シ。道真遂ニ配所ニ薨ズ。既ニシテ時平公ノ諸子相繼ヒテ物故ス。世道真ノ靈ノ崇ル所ロトス。而シテ富小路右府。官位顯達。其朝ニ立ツ。最モ久シ。是公ガ廉清寡欲ノ報ニアラズヤ。

第三 源雅定朝臣門庭寂閑タリシ事

源雅定朝臣ハ。久安年間内大臣ニ拜セラレ。藤原實行朝臣モバタ右大臣ニ拜セラレ。往テ賀ヲ致スモノアリ。車馬門外ニ填咽ス。其謁ヲ通ズルニ及ビ。實行朝臣盛服シテ出ヅ。喜氣眉宇ニ溢ル。既ニシテ雅定朝臣ノ許ニ至レバ。門庭寂閑トシテ。他ノ營設ナシ。倉卒出デ。見テ曰ク。凡ソ大臣ニ拜セラル。者ハ。大饗等ノ儀アリ。事頗ル煩擾ナリ。子ガ輩何ゾ之ヲ賀スルヲ為ンヤト。

櫻所子曰ク。大臣ハ人臣最高ノ官タリ。實行朝臣ノ喜氣眉宇ニ溢ル。モハ。固ヨリ情ノ宜ク然ルベキ所ナリ。然リト雖。門庭寂閑トシテ。他ノ營設ナキニ較ブレバ。亦人ヲシテ其優秀アルヲ覺知セシム。

第四 佐藤憲清世ヲ厭フタル事

憲清ハ。藤原秀郷九世ノ孫ナリ。累世武ヲ以テ名ヲ著ハス。憲清マタ勇敢ニシテ。射ヲ善クシ。頗ル鈴鎧ニ通ジ。和歌ニエミナリ。鳥羽上皇ニ仕ヘテ。北面ノ士トナル。上皇其才ヲ愛シ之ヲ遇ズルヲ優渥ナリ。然レ。性廉介ニシテ世ノ榮利ヲ喜バズ。常ニ遁世ノ志ヲ抱ク。嘗テ族人左衛門尉憲康ト。モニ。鳥羽殿ニ朝シテ還ル。別ルハ。二臨ムデ明日同ク朝センコトヲ約ス。憲清期ニ及デ。往ク。家ニ哭聲アルヲ聞キ。

佐ムデ訪問セバ、則チ憲康前宵暴力ニ死ス。憲清場然タリ。
遂ニ曉爾トシテ志ヲ決シ、妻子ヲ棄テ家ヲ出デ、僧トナ
ル。西行法師是ナリ。西行常ニ謂フ、出家ハ家無ク、鉢ヲ持
テ、身ヲ終ハベシト。是ニ於テ東關西海、遠トシテ到ラ
ザルナシ。其得意ニ當テハ、吟咏シテ自適ス。歎シテ曰ク、一
生ハ幾クモ無シ。來世近キニ在リト。高雄神護寺ノ僧文覺。
西行ヲ悦バズシテ曰ク、汝門ヲ業ト為スモ、ハ宜ク唯道
是修スベシ。彼レ何為スル者ゾ。四方ニ周遊シテ、吟詠日ヲ
淡ル。實ニ佛門ノ賊ナリ。吾若シ之ヲ見バ、必ズ其面ヲ毆タ
ント。西行高雄ニ於リ、文覺ト與モニ語ル。容貌極メテ恭シ。
其徒文覺ニ謂テ曰ク、師何ゾ彼ガ面ヲ毆タスシテ之ヲ禮
遇セルヤト。文覺曰ク、彼レハ我ガタメニ毆タル者ニア

ラス。又テマサニ吾ヲ毆タントス。又鎌倉ヲ過テ、路一源
將軍賴朝ニ逢フ。賴朝因テ召見ス。射馭及ビ和歌ヲ問ヒ、欸
語スル一夕。侍臣ヲシテ其言ヲ所ヲ筆記セシム。翌日辭シ
テ行ル。賴朝固ク留ムレド、可カズ遺クル。銀貓ヲ以テス。
受テ出ツ。適門側ニ兒童ハ遊戯スルヲ見、之ヲ予ヘテ去ル。
建久元年ノ二月、年七十二ニシテ、京都ニ歿ス。
櫻所子曰ク、西行ガ銀貓ヲ抛チタル。入口ニ膾炙スル所ナ
リ。然リト雖、氏西行ニシテ之ヲ為ス。蓋シ深ク之ヲ奇トス
ルニ足ラザルモ、ナリ。初メ憲清ガ鳥羽上皇ノ寵遇ヲ得
ル。若シ之ヲシテ富貴利達ニ汲々タルモノナラシメバ、何
ヲ苦ムデカ捨家棄欲ノ人トナランヤ。神護寺ノ文覺、曾テ
西行ガ為ス所ヲ悦ビサルモ、其之ト相見ル。容貌極メテ恭

シク、後子其徒ニ語ルニ、彼反テ將サニ吾ヲ毆タントスト
謂フヲ以テス。其道德愛カニ文覺ノ右ニ出ヅル所アルヲ
知ルニ足リリ。賴朝ハ、日本武將ノ政柄ヲ掌握セル者ノ始
祖タリ、其威權アリ勢力アルハ、固ヨリ言ヲ待タズ、其召見
スルニ及ビ、一タニシテ行ル、之ヲ留ムレヒ聽カズ、嗚呼、西
行既ニ世ノ榮利ヲ觀ル丁敵疑ノ如ク、天子得テ臣トセズ、
將軍得テ友トスル能ハサルノ守操アリ、何ソ區々タル銀
綿ヲ愛重センヤ、之ヲ土芥視スル、亦唯ムニ足ラサルナリ、
而シテ世人往々其銀綿ヲ兒童ニ授與シタル丁ヲノミ噴
噴シテ、其榮利ヲ以テ雲煙過眼ニ付シタル丁ヲ歎稱セズ、
是固ヨリ西行ヲ知ルモノニ非ルナリ、而シテ今ノ身ヲ釋
門ニ寄スル輩、高堂巨閣ニ住シ、飽煖安逸ヲ貪リ、權門勢家
ニ膝ヲ屈シ、貪名營利至ラザルナキモノ、西行ノ為ス所ヲ
見テ、須ク慚愧懺悔ノ心ヲ起スベキ也。

第五 白拍子佛、前髪ヲ削テ潛カニ第ヲ出ル事
平清盛ノ嬖姫、故王ト云ヘルモノアリ、姿色婉麗ニシテ歌
舞ヲ善クス、西八條ノ第二居ル、恩遇頗ル厚シ、後子白拍子
佛御前ナル者アリ、自ラ西八條ノ第一門ニ踵リ、舞ヲ觀ン
丁ヲ請フ、清盛怒リ、人ヲシテ言ハシメテ曰ク、鼎鑪スラ猶
ホ耳アリ、汝ガ未ダ吾ガ嬖姫岐王アル丁ヲ聞カザルカト、
佛固ク請フテ已マズ、故王之ヲ憐ミ、遂ニ清盛ニ勸メテ其
請ヲ許サシム、佛乃チ場ニ登リ、衣ヲ整ヘテ進ム、容色絶ハ
ダウルハシクシテ、睞眄人ヲ動カス、清盛之ヲ艶ナリトシ、
神思恍惚タリ、舞竟ハルコト、手ヅカラ佛ヲ擁シテ後房ニ

入ラシム。佛愧謝シテ曰ク。妾が僖ラント欲スル者ハ舞ナ
リ、枕席待スルガ若キニ至テハ。則チ妓王ノ在ルアリ。請フ
今ヨリ辭セント。清盛肯シゼス。遂ニ佛ヲ留メテ妓王ヲ逐
フ。妓王悲泣シ。和歌ヲ障子ニ題シテ曰ク。毛衣モイ以イ都留毛モ加カ
留流毛モ於奈志ナシ。能ノ遍ハ能ハ久キ佐サ以イ都禮加カ阿幾仁アキニ。阿波底波都遍ハツバ
幾キ。居ル丁數月。清盛人ヲシテ妓王ヲ召シ。佛ノタメニ舞ヲ
奏セシム。妓王慚憤シテ。肯テ命ニ應セズ。其母曰ク。相國ハ
虎狼ナリ。命ニ違フトキハ。則チ搏噬立トコロニ至ラント。
妓王已ムヲ得ズ。而ハ條ノ第二入リテ舞フ。今様ヲ唱テ曰
ク。佛モ本ト是レ凡夫ナリ。凡夫モ終ニ佛ナリト。座ヲ舉ゲ
テ嘆嗟ス。清盛纏頭ヲ賜タヘテ之ヲ遣ル。妓王佛ノ使役ス
ル所トナルヲ耻ヂ。其母及ビ妹妓女ト。髮ヲ削テ尼トナリ。

草菴ヲ差。哉野ニ結ビコレニ居ル。一夜門ヲ敲ク者アリ。出
デ。之ヲ視レバ。則チ婉然タル美女ナリ。曰ク。身ハ是佛
ノ前ナリ。本ト技ヲ術ハント欲ス。自ラ意ハザリキ。君ヲシ
テ秋扇ノ數アラシメントハ。前日歌詞ヲ聞キ。赧ハ作ハ益シ。
故ニ髮ヲ削リ。潜カニ第ヲ出デ。此ニ至ル。願クハ自今以
後。宿憾ヲ釋テ。トモニ佛陀ニ事ヘ。以テ罪惡ヲ懺除セント。
妓王感喜シテ。遂ニ之ト同ク世ヲ終フト云フ。
櫻所子曰。婦人女子ノ榮利ニ戀々タル。コレヲ男子ニ比ス
レ。更ニ甚シトス。其寵ヲ恃ムヤ。專横至ヲザルナク。其
恩ヲ妬ムヤ。酷虐極リナキ。之ヲ古來ノ史冊ニ徵スルニ。歷
歷トシテ指ヲ屈スルニ違マアラズ。之ヲ大ニシテハ天下
ヲ亂ダルノ殃。之ヲ小ニシテハ身家ヲ喪ボスノ禍。婦人ヨ

リ生ゼサルモノ鮮シ。其原因スル所他ナシ。婦女ノ性質。多クハ貪饒ニシテ。華奢ヲ好ミ。姿色ノ已レニ優サレルモノヲ妬ムニ由レリ。夫ノ呂氏ノ人。魏趙家姉妹ノ皇孫ヲ嫁ル。隋ノ獨孤后ガ宮人ヲ擇ムデ。惟肥大ヲ擇ベル。唐ノ武曌ガ嫡ヲ奪ヒ位ヲ篡ヘル。宋ノ李后ガ齋ニ因テ嬪ヲ殺セル。楚ノ鄭袖ガ新人ノ鼻ヲ掩フ。天教ベタル。袁紹ガ妻。殭屍未ダ殯セズ。五妾首ヲ駢ベタル類。枚舉ニ勝ユベカラズ。然ルニ佛ノ如キ。后妃ノ尊アルニ非ルノミナラズ。白拍子トシテ僅カニ歌舞ノ賤技ヲ嚮グモノ。而シテ一朝髪ヲ削リ。西八條ノ第ニ潜ミ出デ。貴顯ノ優遇殊龍ヲ視ル。糞土帝ナラズ。是妓王ガ事ニ感發スル所アルニ由ルモノナルベシト雖。抑モ亦清介ノ志操アルニアラズンバ。焉

ソ能ク如此ナルヲ得ンヤ。憲清盛達等ガ。家ヲ捨テ欲ヲ棄テ。沙門トナリタルハ。丈夫ガ世態ノ常無キヲ觀テ。世ノ榮利ヲ浮塵漚沫視セル。亦深ク驚怖スベキニアラズトスルモ。女子ノ榮華ヲ脫離セルガ如キハ。實ニ鬚髻アル者ヲシテ愧慙セシムルニ足ル者アリ。然リト雖。妓王ノ若キハ。久シク秋扇ノ歎ヲ懷キ。マタ他ノ玩弄スル所トナルヲ厭ヒ。身ヲ佛門ニ托セシモノナレバ。深ク感歎スルニ足ニスト謂フ可シ。佛ガ恩寵ノ久シカラザル。妓王ノ歌詞ニ感發シ。椒房蘭室ノ棲ヲ出デ。草屋柴扉ノ居ニ投ズ。其機ヲ知テ。聊カモ猶豫セズ。義ヲ見テ利ヲ遺スル。其清廉敢為ノ志氣。慨然タル士君子ヲシテ。殆ンド後ヘニ瞠若タラシム。賴子成曰ク。當時婦女ニシテ丈夫ナルモノアリ。今マ

則チ丈夫ニシテ婦女ナル者アリ、余是ニ於テ、以テ氣運ノ盛衰ヲトスルアリト。世ノ脅肩諂笑、榮利ニ眷戀シ、死ニ至ルマデ悟ラザルモノ、亦佛ノ前ニ耻ルヲ遠シ。

第六 釋高辨無欲ヲ以テ北條泰時ニ誨ヘタル事

釋高辨ハ山城國梅尾ニ住ス。明惠上人トテ、遠近ノ緇素、共ニ景慕欽仰スル所ノ知識ナリキ。兼久ノコロ、鎌倉ノ執權北條泰時、京都ニ在リ、其名ヲ聞キ、往テ之ヲ訪フ。高辨泰時ニ謂テ曰ク、國ヲ治ムルハ猶病ヲ治スルガゴトシ。若シ其原因ヲ究メズシテ藥劑ヲ投ズレハ、則チ徒ニ病ヲシテ增長セシムベキノミ。吾ッラツラ國ノ敗興、理亂スル所以ハ、原因ヲ推究スルニ人ノ欲心ニ在リ。此欲種々ニ名相ヲ換テ天下ヲ擾亂ス。故ニ人ノ上ニタルハ、欲多ケレバ、則チ

ハ國亂レバハハ未ダコレアラズ。予若シ苟モ其欲ヲ寡フシテ以テ斯氓ヲ率ユルトキハ、治安庶幾スベキナリト。泰時大ニ其言ニ數服ス。

櫻所子曰、太田錦城ガ悟窓漫筆ノ中ニ、此高辨ノ泰時ニ誨ヘタル事ヲ數稱シテ、要言不煩トイヘリ。惟フニ佛家ノ欲ヲ戒ムルヤ、貪欲ハ即チ三毒ノ一ニシテ十惡ノ中ニ位ス。戒定慧ノ三學、貪瞋痴ノ三毒ト、次デノ如ク能治所治ナレハ、佛法中ノ戒法、即チ五戒、八戒、十善戒、二百五十戒、三千ノ威儀戒等、究竟スル所。此貪欲ノ煩惱ヲ對治スルガ為メニ設ケラレタルモノニ外ナラズ。宜ナル哉高辨ノ寡欲ヲ以テ泰時ニ誨示シ、以テ治國ノ要領トナセシヲ、然レバ則チ廉清寡欲也者ハ、之ヲ大ニシテハ天下國家ヲ平治スベク

之ヲ小ニシテハ一身一家ヲ修齊スベシ、世上貪欲熾盛ニシテ禍機ヲ踐ムモノ多キハ何ゾヤ。他無シ病原ヲ究メズシテ徒ニ藥スルニ由テ、益其病ヲシテ增長セシムルニ坐スル耳。察セザル可ケムヤ。

第七 青砥藤綱祿ヲ増スヲ辭シタル事

青砥藤綱ハ、左衛門ト稱ス。北條時賴ニ仕フ。清康剛直ヲ以テ稱セラル。年以ヨリ學ヲ好ミ、釋行印ヲ師トス。歳大ニ早スルニアリ。時賴衆僧ヲ聚メテ大ニ施ヲ行ヒ、又親カラ三島ノ神祠ニ詣デ、雨ヲ祈ル。其束載ノ牛水中ニ没ス。藤綱傍ニ在リテ叱シテ曰ク、汝モ亦北條家ノ施行ニ倣フカト。衆其故ヲ問フ。曰ク、天方ニ早ス、牛ニシテ之ヲ知ラバ、宜ク田ニ渡スベシ。今ノ僧ニ施サル、ヤ、其貧ト庶トヲ甄別セ

ズ。庶者ハ寧ハ饑ムレト來ラズ。徒ニ貧者ハ欲フイタスハ。是奚ゾ牛ノ水中ニ没スルニ異ナランヤト。時賴此事ヲ聞キ、召見シテトモニ語り、大ニ其言ヲ悦ビ、藤綱ヲ拔擢シテ引付衆ト為ス。公文トイフ者アリ。北條家ノ封人ト畔ヲ争テ訟フ。衆皆時賴ヲ畏レテ公文ヲ曲トス。藤綱獨リ正ヲ執テ之ヲ直トス。公文之ヲ德トシ、酬報スル所アラントスルヤ。夜中暗カニ錢ヲ苞シ其後園ニ投ズ。藤綱大ニ怒テ郵丁ヲシテ其錢ヲ還送セシム。而シテ夜間滑川ヲ過グ。其十錢ヲ水中ニ遺トス。乃チ五十錢ヲ捐テ、炬ヲ買ヒ、水ヲ燭ラシテ遺錢ヲ撈ハシム。人或ハ其得ル所失フ所ヲ償ハサルヲ嗤フ。藤綱乃チ曰ク、五十錢吾之ヲ失ヘバ人之ヲ得、十錢ハ果シテ誰カ之ヲ得ルモノゾヤ。我六十錢ヲ捐テ、以

テ世ニ益スルナリ。何ノ損失カコレアランヤト。藤綱自ラ奉マシテ儉薄ニシテ施ヲ好ミ。布衣袴褶。刀室漆セズ。日ニ一脯ヲ食フ。時頼之ニ祿ヲ加ヘント欲シテ曰ク。夢ニ神我ヲ見テ曰ク。汝デ治ヲ欲セバ。宜ク藤綱カ祿ヲ増加スベシト。藤綱曰ク。神祿ヲ増セト。謂フニヨリテ。祿ヲ増シタラシメハ。神若シ頭ヲ斬レト。謂フトキハ。頭ヲ斬ラルハ。ナラシカ。敢テ辭スト。藤綱ガ清廉剛直。率ネ此ニ類ス。

櫻所子曰。北條氏陪臣ヲ以テ國政ヲ執リ。大權ヲ掌握スル者。九世ノ久シキニ及ベリ。是累世治民ノ術ニ長ジ。然カモ庶清寡欲ヲ以テ外面ヲ粧飾シタルニ由レリ。其王室ニ對スルノ一事ニ於テハ。言フニ忍ビザルノ跡多シト雖。其位官ヲ得ルヲ欲セズ。其宮室ヲ壯麗ニスルヲ欲セズ。一モ

人目ヲ眩シク耳ヲ聳スルコナキモノハ。以テ其社稷ヲ保持スルノ秘策ニテアリキ。而シテ此等ノ所為ハ。古來ノ英雄豪傑ト雖。善ク之ヲ為スモノ稀ナリ。時頼最モ已レガ嗜好スル所ヲ抑制シ。治國安民ニ汲々タルモノニシテ。而シテ藤綱ヲ草莽ヨリ擢デ。政務ニ參與セシム。風雲際會ト謂ツベシ。古來寒門白望ヨリ擢用セラレ。高官大祿。威望トモニ盛リナルニ及ビ。一朝ニシテ蹉跌シ。身ヲ喪ボシ家ヲ亡ボシタルモノ枚舉ニ遑アラズ。揚子雲ガ所謂其轂ヲ朱丹ニセント欲シテ其族ヲ赤フスル者多カリシハ。安富尊榮ノ地位ヲ得レバ。則チ奢侈驕縱ニ流レ易キヲ以テノ故ニ非ズヤ。北條時頼ノ如キ。青砥藤綱ノ如キ。其弊ヲ鑒ハズ。亦異常ノ守操アリト謂フベシ。夫ノ神ノ夢ニ告ゲラレ

タルヲ以テ。祿ヲ増サント云フ辭シタル事ノ如キ。君寵ヲ得ルガタメニハ。直言極諫スベキヲ知ルモ敢テ為サズ。其甚シキハ堂々タル大臣ニシテ。闇豎ニ諛ビ嬖臣ニ諂ヒ。以テ寵ヲ固フシ祿ヲ増ス。コトヲ熱望セシ類。和漢ノ史冊ニ歴タリ。若シ此輩ヲシテ知ルアラシメバ。何ノ面目アリテカ。藤綱ヲ地下ニ見ルヲ得ムヤ

第八 成瀨正成重祿ヲ固辭シタル事

成瀨正成。小字ハ小吉。後チ隼人ト稱ス。徳川氏ノ臣ナリ。長湫ノ役。家康公ニ從ヒ。一甲首ヲ獲テ之ヲ獻ズ。時二年。甫メテ十七ナリキ。公之ヲ奇トシ。命ジテ麾下ニ留マラシム。既ニシテ我が前軍利アラズ。正成マサニ出デ。戰ハント欲ス。從者馬ヲ叩テ諫メテ曰ク。君已ニ首級ノ功アリ。以テ已

ナリ。唯マサニ進テ敵ヲ勦スベキノミト。從者猶繼テ撃ル。正成益怒リ。刀脊ヲ以テ之ヲ撃ツ。公望ミ見テ曰ク。是壯士死戰ノ秋ナリト。從者未ダ嚙ヲ放ソニ及バズ。正成直チニ馳テ敵中ニ入り。大ニ呼デ我が軍ヲ勦マシ。奮戰シテ敵ヲ卻ゾク。後チ正成擢ムデラレテ根來團隊長トナル。公大ニ正成ガ功ヲ賞シテ曰ク。老將宿帥ト雖モ過グルコトアタハズト。蓋シ公ノ麾下ニ於テ。成童ニシテ隊長トナル者ハ正成一人ノミナリト云フ。大坂ニ於テ簡馬ノ舉アリ。關白秀吉公。城樓ヨリ之ヲ觀ル。驪馬ニ跨ガリ。赤鞋ヲ鞞ニ繫ギ。馳セ來ルモノアリ。秀吉公之ヲ左右ニ問フ。答テ曰ク。徳川ノ士成瀨小吉ナリ。其祿幾何ゾ。曰ク。俸米二千苞ナリ。秀吉公

歎シテ曰ク。壯士ナリ。渠ヲシテ圖ヲ改メテ我ニ仕ヘシメ
バ。五萬石ニ封ゼント。他日公以テ正成ニ告ゲテ其出仕ヲ
勸メテ曰ク。汝今能ク豐臣氏ニ事ヘバ。富貴立ドコロニ至
ル。我モマタコレヲ悦バント。正成泣涕シテ曰ク。是何ノ言
ゾヤ。臣不肖ナリト雖。臣豈ニ祿ヲ貪リテ君ヲ忘レンヤ。願
クハ自殺以テ臣ガ赤心ヲ明カニセンノミト。後チ公群臣
ニ謂テ曰ク。以テ三尺ノ孤ヲ託スベキモハハ正成也ト。
櫻所子曰。當時群雄邦内ニ割據シ。戰鬪止ム時ナク。壯士驍
將ノ軍ニ在ル。攻城ニハ先登ヲ爭ヒ。陣ヲ陷レ敵ヲ卻ゾケ。
以テ奉旗擒將ノ功ヲ奏セントシテ。前ムテ矢石ヲ冒カシ。
湯火ノ難ヲ避ケザル者。重賞厚祿ノ為ニ使ハル。ニ非ズ
ヤ。正成ノ驍勇ナル。結髮軍ニ從ヒ。善ク奉旗擒將ノ功ヲ奏

セリ。而シテ豐公重祿ヲ以テ之ヲ招ギ。家康公マタ其仕ヲ
勸ム。而シテ正成專ラ節義ヲ重ンジ。重祿ヲ輕ンジ。屠腹以
テ其赤心ヲ明カニセントス。蕪澤ノ風操。凜乎トシテ秋霜
ノ如シ。是德川氏士ヲ養フノ術。固ヨリ他ノ及ブ所ニアラ
サルニ由ルモノナル可シト雖。臣抑亦三河武士ノ忠膽義
肝。真ニ感歎スベキ者多シ。其君臣ノ情誼。水魚膠漆モ啻ナ
ラサルモノアリ。數萬石ノ祿ヲ與ヘ以テ之ヲ招ゲトモ。敢
テ去ラズ。宜ナル哉。德川氏ノ威武。天下マタ共ニ鋒ヲ爭フ
モノナク。三百昇平ノ基ヲ開キタル。嗚呼正成ガ勇悍ナ
ル。少年ニシテ奮戰敵ヲ卻クルノ功ヲ奏シタルニハ猶及
ブベシ。其食俸二千苞ニシテ。而シテ五萬石ノ厚祿ヲ固辭
シタルニハ。及ブベカラサルナリ。德川氏ノ漸ク衰フヤ。蕪

耻ノ風熄ミ、貪汚ノ習長シ。俸祿微薄ナルモノ、如キハ固ヨリ權門ニ阿諛シ、執家ニ諂媚スルヲ以テ常トナスノミナラズ。堂々タル有土ノ大諸侯ト雖モ、亦一官ヲ得一邑ヲ取ランガタメニ、奔競馳驅スルニ至レリ。某侯老中某ニ賄遺シテ、大老トナリ。某ト行クトキハ則テ敢テ並ビ行カズシテ雁行シ、以テ其意ニ媚ビタルノ如キ。家治公時代ノ習弊ナリキ。宜ナル哉。再後數十年ニシテ、遂ニ祖宗ノ業ヲ守ルコトアタハズシテ、太政ヲ王室ニ奉還スルニ至レリ。嗚呼、貪ト黷トノ消長ハ、興敗理亂ノ由テ分カル、所ナリ。鑑ミサルベケンヤ。

第九 藪内匠先登ノ功ヲ爭ハザリシ事

藪内匠、初メ與次右衛門ト稱ス。中村一氏ニ仕フ。屢戰功アリ。

リ。内匠ノ入タル、深沈ニシテ器局アリ。豐臣秀吉公ノ此條氏ヲ伐ツヤ、一氏ニ從テ山中ヲ攻メテ之ヲ拔ク。内匠先登ス。渡邊了之二次グ、了ガ背旗甚タ大ナリ。秀吉公高キニ登テ之ヲ望ミ見テ、以テ了ガ先登セリト為ス。了ヲ賞スルニ先登ノ功ヲ以テス。内匠敢テ爭ハズ。既ニシテ一氏二人ニ祿各、三千石ヲ與ヘ、特ニ内匠ニ賜フルニ見米ヲ以テス。俸祿ノ制、大率十分ノ四、見米了心ニ平カナラズ。遂ニ仕ナ致シテ去ル。去ルニ臨ムテ、价ヲ内匠ニ遺ハシテ曰ク、願ハクハ子ト郊ニ相見ヘント。内匠即チ往ク。了馬上ニ偃月ヲヲ横タヘ、内匠ヲ邀ヘ之ヲ勞シテ曰ク、吾將サニ遠行セントス。故人ト訣セズンバアル可ラズ。然レ氏故人ト訣ヲナス可キ者、獨リ卿アルノミト。因テ刀ヲ捧グテ曰ク、斯力別

意ヲ寓ス。卿幸ニ善クコレヲ藏セヨト。言恭フシテ色怒ル。内匠神色自若トシテ進ム。デ刀ヲ受ケテ曰ク。吾モ亦マサニ卿ニ驢セントスト。乃チ佩ブル所ノ刀ヲ脱シ之ニ與ヘテ別カル。人ミナ之ヲ壯ナリトス。

附テ云フ。慶長五年。家康公上杉氏ヲ討ツ。一氏疾篤シ。曰ク。方今吾カ兒子ヲ托スベキ者ハ。内府ヲ家康公ニアラズシテ誰ソト。乃チ内匠ヲシテ款ヲ通セシム。公之ヲ許ス。一氏弟一榮ヲシテ軍ヲ率斗テ公ニ關東ニ從ハシム。既ニシテ石田三成等。兵ヲ美濃ニ起ス。一榮軍ニ還ル。内匠一榮ニ從テ美濃一至ル。池田輝政。福島正則等。將サニ岐阜ヲ攻メントス。内匠之ヲ聞テ曰ク。在昔豐臣氏ノ軍。我カ兵毎ニ之レガ先タリト。乃チ武田又六野一色頼母ト。モニ軍監ニ詣リ

テ先鋒タランヲ請フ。時ニ正則座ニ在リ。驕豪氣ヲ負ビ。罵テ曰ク。一榮小兒。口吻猶小黃ナリ。敢テ先鋒タラント欲スルカ。詰旦ノ事。正則ノ在ルアリト。之ヲ叱シテ退カシム。又六頼母相顧ミテ退ク。内匠憤激シテ去ルヲ肯ムセズ。正則ニ謂テ曰ク。往日式部ノ軍ニ在ルヤ。公特ニ一偏裨ノミ。今日式部ガ在ラサルヲ以テ。抗顔自大ナルハ。乃チ鳥ナキ。卿ハ蝙蝠タルナカラシヤト。正則大ニ怒リ。之ヲ斬ラント欲ス。衆救テ解ケタリ。聞ク者其抗直ヲ稱歎ス。九月十四日。一榮ニ從テ浮田石田二氏ノ兵ヲ株瀨川ニ撃テ之ヲ破ル。追テ川ヲ淺リ。伏ニ遇フテ利アラス。事平グニ及ンデ一氏既ニ卒ス。嗣子忠一年以ニシテ。放縱度ナク。其老臣横田内膳ヲ殺ス。舊臣服セズ。往々ニ棄テ去ル。内匠モ亦京師ニ隱

ル。初メ内匠福島正則ト先鋒ヲ争フヤ。細川忠興亦座ニ在
リ。深ク其抗直ヲ愛重ス。是ニ至テ聘ヲ厚フシテ之ヲ招致
シタリトゾ。

櫻所子曰。内匠ガ渡邊了ト訣スルヤ。神色自若タリ。内匠ガ
先鋒ヲ争フヤ。驍悍正則ノ如キ人ニ抗シテ屈セズ。其膽勇
實ニ稱歎スベキモノアリ。而シテ其此ノ如クナルヲ致セ
ル所以ノ本ハ何ゾヤ。他無シ其清廉寡欲ニシテ。先登ノ功
ヲモ争ハサルホトノ志操。常ニ其心ニ存スルヲ以テナリ。
人苟クモ貪汚ノ心アルトキハ。畏ルベカラザルヲ畏レ。
驚クベカラサルヲ驚キ。耻ヅベキヲ知レトモ敢テ耻
チス。言フベキヲ知レトモ敢テ言ハス。遂ニ立仗ノ馬ノ
如ク。鞍下ノ駒ノ如ク。凜乎トシテ燕ノ幕ニ巢フカ如クナ

ルニ至ルモノナリ。其敢テ為シ敢テ言フ者。我特リ廉潔ニ
シテ貪汚ノ心ナキ人ニ於テ之ヲ見ル。内匠ノ如キハ則チ
其人ナリ。

第十 池田市郎兵衛功ナクシテ禄ヲ加フルヲ耻ヂタ
ル事

池田市郎兵衛ハ。寺澤廣高ノ臣ナリ。勇ヲ以テ聞ユ。初メ
諸國ニ遊ブ。窮スルヲ殊ニ甚シ。廣高之ヲ招聘シ。禄四百石
ヲ給ス。黒田長政。細川忠興。市郎兵衛ガ勇悍ナルヲ聞キ。皆
ナ。三千石ヲ以テ之ヲ招グ。辭シテ曰ク。小人登ク寺澤公ノ
知ル所トナル。恩負ムク可カラサルナリト。廣高亦益之ヲ
重ンジ。禄三千石ヲ與フ。市郎兵衛辭シテ曰ク。臣豈ニ禄ノ
多少ヲ論センヤ。唯。君カ眷遇ノ厚キニ感ズ。故ニ敢テ質ヲ

委ヌ。今已ニ一邑ヲ受ク。衣食足レリ。之ヲ過グル以徃ハ。望ム所ニアラズ。何況ヤ。未ダ功[◎]アラズシテ。祿[◎]ヲ加フルニ於テ。ヤ。臣ガ深ク之ヲ耻[◎]ル所ナリト。終ニ辭シテ受ケズ。市郎兵衛ハ未ダ來リ仕ヘサルヤ。嘗テ某軍ニ從テ殿^シタリ。一人ノ劊ヲ被^シマリテ田間ニ仆ル。モノアリ。呼デ救ヒテ求ム。市郎兵衛扶ケテ已レガ馬ニ騎セ。自ラ轡ヲ擘テ退ゾク。時ニ敵ニ騎アリ來リ薄マル。市郎兵衛留マリ戰フ。一人ヲ殪シ二人ヲ走ラシメ。終ニ其人ヲ以テ免レシメタリ。後其人黒田長政ニ事フ。一日長政廣高三請タリテ之ヲ語ル。廣高市郎兵衛ヲ召シテ之ヲ問フ。市郎兵衛答テ曰ク。彼ノ人ノ救ヒテ求マル時ニ方タリ。追騎來リセマル。臣自ラ以爲ク。之ヲ救フトモ必ス。ス兩ツナカテ全キコトヲ得スト。將サ

ニ棄テ、歸ラントス。又恐ラクハ或ハ我ニ後ル、者アリテ之ヲ救ハ。他日何ノ面目アリテカ彼レヲ見シヤ。寧ロ共ニ死センノミト。已ムヲ得ズシテ之ヲ救ヘリ。今ニ至ラ之ヲ愧ヅト。長政益其真率ニシテ。外面ヲ塗飾セザルニ服シ。則チ曰ク。是レ百首級ヲ得ルヨリモ難シト。又市郎兵衛出ル毎ニ必ス一甲篋ト。三日ノ糧ヲ齎ラス。近鄰ニ之クト雖^レ氏亦然カセリトゾ。櫻所子曰。天下戰亂。英雄競ヒ起リ。志ヲ中原ニ得ント欲スル者。四方ニ割據スルニ方リテハ。其曲直臧否ヲ決スル所ノモノハ。長槍大戟アルノミ。謂ツベシ。大壞極亂。倫常地ヲ掃フト。此ハ如クナルヲ以テ。武士タルモノハ。各自ニ祿ノ多寡ヲ以テ去就ヲ決シ。待遇ノ厚薄ヲ以テ恩讎ヲ分カツ。

故ニ朝夕ニハ甲ニ從ヒ。暮ニハ乙ニ適ク。其重祿厚賞ヲ得
ント欲スルヤ。臣トノ其君ヲ弑スルモノコレアリ。子トシ
テ其父兄ヲ弑スルモノコレアリ。其父母妻子ヲ敵國ニ質
トスルガ如キハ。珍シカラザル事ニテアリキ。然ルニ市郎
兵衛ノ清介ナル。祿ヲ加フルガタメニ其恩ニ負ムカズ。マ
タ功ナクシテ祿ヲ加フルヲ以テ耻トナシテ受ケズ。而シ
テ夫ノ軍ニ殿シテ人ヲ救フ事ヲ問フアレバ。答フルニ止
ムヲ得ザルニ出タルノ真情ヲ以テシ。敢テ已レガ勇悍ニ
誇ラズ。當時戰乱ノ世ニハ。得易スカラザルノ士ナリ。且ナ
ル哉。廣高ノ之ヲ重ムシ。而テ黑田細川ニ氏ガ之ヲ招ガン
トシタリシ。今ヤ王政古ヘニ復シ。百度更革。粲然トシテ
曾觀ヲ一變ス。然リト雖。臣亦開明ニ伴ク所ノ弊アルヲ免

ヌカレズ。人々利ヲ爭フテ義ヲ遺スレ。得ルヲ貪テ耻ヲ思
ハサル。ハ。年二月ニ其甚シキヲ加フルモノ。如シ。夫ノ
傲然トシテ已レガ學識ヲ以テ人ニ驕リ。若クハ其世故ニ
鍊達シ。若クハ財産ノ饒カナルヲ示サントスルヨリシテ。
其衣服居室ヲ華麗ニシ。以テ人目ニ眩耀セントスルモノ。
肩ヲ比ベテ來リ踵ヲ接シテ往ク。所謂良賈ノ財ヲ藏メテ
空キガ如クスル者甚ダ稀ナリ。而シテ虚ヲ以テ實トナシ。
空キヲ以テ盈ツルガ如クスルモノ。他ナシ名利ヲ釣ルノ
香餌トセンガタメニ。學識ナクシテ之アルガ如クシ。世故
ニ鍊達セズシテ。猶ホ熟達セルガ如クシ。財産乏シクシテ
富ムガ如クスルニ外カナラズ。其市郎兵衛ガ夕夕ニ冷笑
セラレザルモノ幾シト希ナリ。

第十一 黑田彦左衛門功ヲ人ニ譲リタル事

黑田彦左衛門ハ、神原康勝ノ臣ナリ。大坂ノ役、彦左衛門一
甲士ヲ殪ス。其マサニ之ヲ載セントスルヤ、三枝勘兵衛ナ
ルモノアリ。其友タリ。來テ其首級ヲ爭フ。彦左衛門之ヲ委
棄シテ去ル。勘兵衛後口ヨリ之ヲ呼ブ。聞カサルマネシテ
馳ス。又一敵將ヲ撃テ之ヲ殪ス。城陷ル。康勝ガ病ヲ以テ卒
スルニ會ス。家康公久世廣之。坂部廣勝ヲシテ、神原氏ガ家
臣ノ功ヲ論ゼシム。勘兵衛首級ヲ呈シ。二使ニ謂テ曰ク、此
レハ黑田彦左衛門ガ獲ル所ナリ。彼レ即チ棄テ去ル。臣
故ニ之ヲ拾フト。二使彦左衛門ヲ召シテ之ヲ問フ。對テ曰
ク。知ラザルナリ。勘兵衛ガ曰ク。子ハ嚮キニ槍ニテ此敵ヲ
殪セリ。吾後ハヨリ之ヲ呼ブ。子ハ即チ棄去ル。吾亦屢子ヲ

呼ブ。子何ゾ之ヲ知ラズト謂フヤト。彦左衛門曰ク。吾竟ニ
知フザルナリト。家康公之ヲ聞テ。深ク之ヲ嘉稱セラレタ
リ。

櫻所子曰。戰國ノ士。善戰健闘。矢石ヲ冒カシテ身命ヲ顧ミ
ザル者ハ。他無シ。戰功ヲ立テ、榮達ヲ得ンガタメナリ。故
ニ戰畢テ功ヲ爭ヒ。賞ノ輕重ヲ視テ或ハ愉悦シ。或ハ不滿
ヲ抱ク。夫ハ韓信ガ多々益辨ズルノ將畧アルニ誇リ。興劉
破楚ノ大勲ヲ樹テタルホドニテス。猶ホ其眼ヲ注ク所
ハ封土ノ榮ヲ取ランガタメノミ。故ニ項羽ノ凶ビタル所
以ヲ論ジテハ。其不仁ニシテ人ヲ殺スヲ嗜ハトイハバシ
テ。印利ルレ氏與ヘザルヲ以テシ。三寸ノ舌ヲ掉テ齊ノ七
十城ヲ降ダセシ。鄆食其ガ功ヲ妬ミ。遂ニ齊王ヲシテ此ヲ

烹殺サシメテ頑ミズ。己レガ武カヲ以テ齊ヲ取ルニ及ビ
テハ、其宮殿ノ偉麗ニシテ、城廓ノ宏壯ナルヲ喜ビ、假リニ
齊王タラント欲スルニ至タレリ。其富榮ヲ求ムルニ汲々
タル此ノ如キアリ。況ヤ其智其略、淮陰ニ若カザル者ヲマ
ミナ分ニ應ジテ、賞ヲ求ムルガタメニ功ヲ争フハ、是戰國
ノ武人ノ常態ナリ。視ヨ如此日ニ在テ功ニ誇ラサルハ、以
テ天下後世ノ標準トナスベキモノナレバコソ、魯論公治
長ノ編、孟之反不伐、奔而殿、將入門、策其馬曰、非敢後也、馬
不進也。トノ廿三字ヲ載録セルモノナルヲ、然レモ孟之
反ハ魯ノ大夫ナリ。此言ヲ作シテ、自ラ其功ヲ掩フ、亦深ク
驚クニ足ラス。夫ノ彦左衛門ハ一武夫ノミ、而シテ己レガ
一甲士ヲ殲スノ功ヲ推シテ、其友ニ讓ルカ若キ、實ニ古ノ

孟之反ニ優サルモノト謂フモ可ナリ。亦以テ世ノ武人タ
ルモノ、功ヲ争フテハ朋友ノ誼ヲ遺スレ、賞ヲ競フテハ
長上ノ恩ニ背ムク等ノ事アルヲモ、敢テ頌省スルヲ知
ラザル輩ヲシテ、愧死セシムルニ足レリ。然ラバ則チ彦左
衛門ガ事、天下後世ノ模範トナシ。己ニ矜リ人ニ誇ルモノ
ヲシテ、警醒スル所アラシムベキナリ。

第十二 菴原助右衛門將首ヲ人ニ與ヘタル事

菴原助右衛門ハ、駿河ノ人ナリ。初メ戸田氏ニ仕フ。後チ井
伊直孝ニ仕ヒ、大坂ノ役ニ從フ。其木村重成ト若江ニ戰フ
ヤ、我が前軍利アラズシテ、川手主水、山口伊豆等之ニ死ス。
助右衛門衆ヲ勵マシ、力戰シテ之ヲ破リ、進ムデ重成ニ薄
マル。直チニ十字槍ヲ以テ其母衣ヲ突キ、コレヲ渚中ニ倒

ス。從卒其首ヲ斬ル。直孝ノ近臣安藤長三郎ナルモノアリ。
來テ其首ヲ乞フ。助右衛門輒之ヲ予ヘテ曰ク。我が夫ノ
人ト戰フヤ。彼レ自カラ名イテ曰ク。木村重成ナリト。果シ
テ信ナリ。然レ氏重成ガ頭ヲ得ルハ。我ニ放テハ。未タ以テ
功ト為スニ足ラズ。子其レ以テ功ヲ為セト。長三郎喜躍シ
テ。將サニ其首ヲ持チ去ラントス。助右衛門呼デ之ニ謂テ
曰ク。將軍甲首ヲ闕ミセラル。氏他ノ證左ナケレバ。則チ
信セラレサルナリト。迺チ其母衣ヲ裂キ以テ首ヲ裹ミ。力
ヲ并セテ之ヲ予フ。家康公大ニ長三郎ガ功ヲ賞セラル。長
三郎是ヲ以テ名ヲ著ハスニ至レリ。助右衛門ガ戚族此事
ヲ聞キ悔ヒ且ツ惜ム。助右衛門坦然トメ曰ク。我が功ハ主
公能ク之ヲ知ル。我復タ何ヲ力感マンヤト。其功ニ矜ラザ

ル。慨ネ此類ナリ。

援所子曰。木村重成ハ。大坂ノ勇將ナリ。其首級ヲ得ルノ功。
豈ニ當ニ尋常ノ首級十百ヲ獲ル者ト匹敵スルノナラ
シヤ。然ルニ助右衛門苦戰力闘シテ。敗潰セントスル勢ヲ
復セシノミナラス。其敵將ヲ斃ス。非常ノ戰功アルモノト
謂フベキナリ。然ルニ敵將ノ首級ヲ以テ人ニ與ヘ。豎子ヲ
シテ名ヲ成サシムルヲ甘ムシ。已レハ翻テ戚族ノタメ
ニ悔惜セラル。ニ至ルモ。主公能ク我が功ヲ知レリト謂
テ。毫毛其意ヲ經ズ。其清廉ニシテ。功ニ矜コリ名ヲ繳メザ
ル。古往今來。其比類ヲ見スト。謂フモ可ナリ。思フニ我邦慶
元ノ時代ニ於テハ。戰亂日久フシテ。武門武士タルモノ。日
夜戰闘ニ從事シ。櫛風沐雨以テ常トナス。マタ書ヲ讀ミ理

ヲ講ズルニ暇マアラズ。而シテ其清廉剛毅ノ志操、凜乎トシテ秋霜ノ如ク。讀書明理ノ人ヲシテ、後ヘニ瞠若タラシムルモノ。往々ニシテ在リ。其功ヲ譲リ能ニ矜コラザル。孟子反其人ニ凌駕スルモノ亦鮮シトセズ。東方君子國ノ稱、決シテ過譽ニ非ザルナリ。唯望ム此君子國ノ美風良習ヲシテ、永ク地ニ墮ツルノ期ナカラシメンコヲ。

第十三 林新右衛門子孫ノタメニ祿ヲ食ムヲ否ミタル事

林新右衛門ハ、福島正則ニ仕フ。正則ノ江戸ニ在テ罪ヲ得ルヤ、新右衛門奥家老タリ、正則ニ謂テ曰ク。若シ兵ノ侵逼スルヲバ、公ハ自カラ圖リコトヲ為セ。閨愛ニ至テハ臣能ク之ヲ處置シ、火ヲ縱テ其屍ヲ匿クシ、而シテ後チニ臣

之ニ殉セン。君慮リヲ勞スルコト勿レト。正則ガ死ヲ省メテ信濃ニ徙サル、ニ及ンデ、新右衛門ハ、去テ京師ニ隱ル。是ヲ以テ名顯ハレ、諸侯爭テ之ヲ召ス。辭シテ曰ク。新右衛門年七十二踰エ、復タ用ユルニ足ラズト。故人或ハ子孫ノ計ヲ為スヲ勸ム。新右衛門曰ク。功無クシテ祿ヲ食ハ、耻焉。リ大ナルハナシ。禍是ヨリ生ゼン。余我が子孫ヲシテ素餐ノ譏ヲ受ケシムルハ、子孫ヲ愛スルノ道ニアラサルナリト。竟ニ仕ヘズシテ京都ニ終ハル。

櫻所子曰。今ヤ舊來ノ弊事ヲ革除セラレ、門閥世襲ノ事ハ、昔日ノ談話トナリヲハレリ。然レバ復タ祿ヲ求メ以テ子孫ノ計ヲ為スモノアルベキ理ナシ。然リト雖、世間人ノ父タル者ニシテ、其兒孫ヲシテ、富貴榮華ナラシメンコヲ

欲スルハ。人ノ常情ナリ。而シテ其兒孫ノタメニ計畫スル
所。其道ニ由ラズシテ。之レガ為メニ往々反對ノ結果ヲ得
ルモノ多シ。即チ其衣食ヲ鮮麗ニシテ。奢侈ニ習熟セシメ。
其奴婢ヲシテ敬重セシメテ。驕傲自大ノ念ヲ增長セシメ。
財ヲ積ミ産ヲ蓄ヒ。徒手坐食ニ安ムジ。怠惰放逸ニ陥ラシ
ムルノ基ヲ為スノ類ナリ。然レバ則チ人ノ父タルモノ。其
兒孫ヲ愛育スルノ道ヲ知ラズンバ。兒孫ヲ愛スル所ノ處
措ハ。却テ他年兒孫ヲシテ。艱厄ニ遭際セシムルノ媒ト為
ルヲアラシ。兒孫ヲ愛スルノ道。知ラスンバアルベカラズ。
新右衛門ノ如キハ。子ヲ愛スルノ道ヲ知ルモノト謂フベ
キナリ。

第十四 成瀬正一 盈満ヲ以テ戒メト為シタル事

成瀬正一。吉右衛門ト稱ス。其伯ハ正義。仲ハ乃チ正一。是ナ
リ。徳川氏ニ仕フ。兄弟並ビニ材武ヲ以テ聞コユ。三方原
役我ガ師判アラズ。正義即チ正一ヲシテ家康公ヲ迎護セ
シメ。危急ヲ脱ス。姊川長篠ノ諸戰。正一ニナ從テ功アリ。正
一必キ時甲列ニ寄食シ。武田氏ノ軍事ヲ諳ンズ。因テ毎ネ
ニ甲ト接戦スルキハ。必ズ正一ヲシテ軍事ヲ督セシム。甲
陷ルニ及ビ。士民多ク我ニ歸ス。盖シ正一與リテカラマリ。
甲人既ニ歸順シ。平岩親吉ヲ以テ軍代ト為シ。正一及ビ日
下部定好ハ奉行ト為リ。新ニ號令ヲ布ク。正一乃チ武田氏
ノ軍國圖籍ヲ獲テ之ヲ獻ズ。是ヲ鉅功ト為ス。徳川氏ノ霸
府ヲ江戸ニ開クヤ。亦正一二命ジテ其政令ヲ定メシム。關
ヶ原ノ役。秀忠將軍ニ從テ。旗奉行ト為ル。事平ク。伏見城ノ

留守ニ擢デラレ。兼ネテ江別數郡ニ知タリ。元和元年時旨ヲ以テ權リニ龜山城ニ守タラシム。蓋シ遂ニ以テコレニ封ゼントスルナリ。正一辭シテ曰ク。臣老タリ。能ク為ス。ナキナリ。且、臣が子弟ハ不肖ニシテ。並ヒ二國恩ヲ濫リニス。常ニ負荷スルヲ能ハザルヲ懼ル。累ヲ老臣ニ貽スヲ以テナリ。必ズ寵賚ヲ蒙ムヲバ。則チ黃金以テ餘生ヲ養フニ足ラシメタマヘト。家康公因テ黃金若干ヲ賜與シ。以テ其志ヲ成ス。公ノ既ニ薨ズルニ及ビ。正一薙髮シテ。復タ人事ニ干カラズ。元和六年。壽八十三ニシテ浪華ニ没ス。櫻所子曰。昔在中原鹿ヲ逐ヒ。干戈相尋グ。此時ニ當リ。佐命ノ勲。其人ニ乏シカラズ。然リト雖。臣概ネ攻城野戰ノ一。寧旗擒將ノ一。正一ノ如キニ至テハ。文武ノ美ヲ濟ス。創業守

成兩ツノガラ全タシ。是豈ニ得難キノ材ニ非ズヤ。目ツ夫武弁ノ士ハ。功ヲ爭ヒ封ヲ覬フ。固ヨリ其常ナリ。獨リ正一深ク盈滿ヲ以テ戒メト為シ。足ルヲ知リ分ニ安ムジ。以テ其晩節ヲ全フス。此ヲ當時ニ求ムルモ。千百中ニシテ一二ヲ得易スカラズ。況ヤ今時ハ。一資半俸ヲ得ルニ汲々タルモノ。憧々トシテ肩ヲ比ベ踵ヲ接シテ來往シ。狷介ヲ以テ固陋トシ。廉潔ヲ目シテ迂僻トシ。利ニ敏キ者ヲ稱シテ。識量アリ材幹アルモノトスル時ナルヲヤ。縱使市ニ虎ヲ出スアルモ。恐ラクハ正一ノ如キ人ヲ見ルヲ能ハザルバシ。然リ而シテ彼レハ清廉ヲ以テ。其晩節ヲ全フシ。此レハ貪名營利ノタメニ。往々禍機ヲ踏ムヲ免カレズ。亦以テ貪廉變化シテ。安危處ヲ異ニスルヲ見ルベシ。知ラズ世人ハ。

貧ニシテ危殆ナルヲ取ルカ。將タ庶ニシテ安全ナルヲ取ルカ。

第十五 市橋長璉ノ後室ノ清介ナリシ事

仁正寺ノ領主市橋伊豆守長璉ノ後室ハ平戸ノ城主松浦肥前守誠信ノ女ナリ。長璉ノ没スルニ及ビ、後室其子女ヲ訓ユル。恰カモ嚴父ノ如シ。閫政清肅タリ。又廉介ニシテ節儉ヲ守リ。然カモ施惠ヲ好ム。凡ソ單窶ニシテ倚ル無キ者ニ遭フトキハ。所有ヲ捐テ、以テ之ヲ賙ハス。至ル孀居十七年、儉素愈堅シ。其居ル所頗ル庳陋ナリ。世子長昭嘗テ改ハ作ラン。コヲ請ス。後室可カズシテ曰ク、廣厦華屋ハ未亡人ノ宜キ所ニアラス。且ソ吾久シク之ニ安ム。其陋タルヲ知ラザルナリト。其已レニ節ニシテ人ノ豐カナル廉

潔ニシテ貪ラザル。率ネ此類ナリキ享和二年ノ夏、疾ニ由テ歿ス。

櫻所子曰。物茂卿ガ政談ノ中ニ謂ヘルコアリ。曰ク大名ノ妻ホド。埒モナキモノハナシ云々ト。思フニ農工ノ家。子ヲ生ムデ尚ホ就學ノ日無シ。女ヲ生ム亦何ゾ傳女保母ニ就カシムルノ時アランヤ。然ルニ頃來。驕恣淫逸ノ婦女。毎ニ郷閭ニ在ラスシテ。縉紳ノ族ニ在ルハ何ゾヤ。郷閭ノ女ハ。其勞ニ慣レ。其業ニ從事シ。初ノ嬌養縱恣ノ事アルヲ知ラズ。嬌情性ト成ルニ非ズ。故ニ嫁シテ後チ。亦能ク自ラ辛勤勞動ス。特リ縉紳貴豪ノ女ハ。平時之ヲ視ルコ。掌珠ノ如クシ。閨中一呼スレバ。堂上百應ズ。裁縫織紵ノ何事タルヲ知ラス。中饋ノ勞ノ如何ヲ解セズ。琴棋以テ永日ヲ消シ。巾箱

本ヲ讀ムテ秋夜ノ長キヲ覺ヘズ。朝タニハ日高フシテ未
ダ起キズ。タベニハ更闌ナルモ未ダ寢ネズ。華麗ノ衣ヲ被。
鮮美ノ食ヲ食ヒ。驕縱度ナキモノ多シ。然ルニ仁正寺候ノ
後室。身候家ニ生長シ。能ク儉素ヲ守リ。蕪潔ヲ旨トシ。子女
ヲ訓ユル法アリ。其已レニ節約ニシテ。人ニ豐厚ナルモノ。
豈ニ之ヲ賢婦人ト謂ハザル可ケンヤ。我邦女教ノ振ハザ
ルヲ久シ。而シテ家政ヲ整理シ。兒女ヲ訓誨スル。妻タリ母
タルモノ、カ多キニ居ル。今世ノ貴豪。妻ヲ娶ルニ其色ヲ
擇ムデ。マタ其他ヲ顧ミザルモノ、如シ。其家政ヲ整理シ。
兒女ヲ訓誨スルニ至テハ。果シテ如何ナランカ。謝肇淛ガ
言ニ曰ク。余四方ノ遊官。京師ノ女ヲ取テ妾ト為ス者ヲ見
ルニ。皆資斧ヲ罄クシテ。以テ口腹ニ供シ。精神ヲ澈シテ以

テ其欲ヲ遂グ。故里ニ歸ルニ及ムデハ。則ク撒潑シテ離ル
ルヲ求ム。父母兄弟。群然トシテ罵詈訕ス。其勤儉ニシテ家
ニ幹タルモノヲ求ムレド。千百人中ニ一ニ得ルヲ能ハ
ズト。又曰ク。夫子女子小人ヲ謂テ養ヒ難シト為ス。書ニ紂
ガ婦言ヲ用ユルヲ稱シ。詩ニ哲婦城ヲ傾クト稱ス。凡ソ
婦人女子ノ性。一ノ佳ナル者ナシ。妬ナリ。嗔ナリ。妬ナリ。嬾
ナリ。拙ナリ。愚ナリ。酷ナリ。怒リ易キナリ。疑ヒ多キナリ。輕
シク信ズルナリ。瑣屑ナルナリ。忌諱ナリ。鬼ヲ好ムナリ。愛
ニ溺ル、ナリト。我今ノ婦人女子ニ於テモ。亦マサニ斯言
ヲ以テ移評セントス。而シテ市橋氏ノ後室。松浦氏ノ如キ
賢婦人ニ至テハ。真ニ千萬中ニ一モアレザルベシ。蓋
シコレアラシ吾未ダコレヲ見ザルナリ。

第十六 佐藤塵也伯母ノ贈ル所ノ金ヲ辭シテ受ケザ

リシ事

佐藤塵也。周軒ト號ス。武蔵ノ人ナリ。世武ヲ以テ顯ル。高祖新九郎信清。織田右府ニ仕ヘ戰功アリ。塵也ニ至テ始メテ文ヲ好ミ。後藤松軒ノ門ニ學ブ。塵也小少ヨリ其志即チ堅フ。嘗テ荆溪京ニ遊フ。便道伏水ニ過リ。伯母ヲ省ス。伯母ハ田光氏ノ母タリ。家頗ル富ム。塵也ガ至ルヲ喜ミ。且ツ篤志ヲ感ジ。乃チ金百兩ヲ出シ之ヲ贈テ曰ク。汝ガ此ヲ以テ學費トセヨト。塵也辭シテ受ケズ。伯母曰ク。勿レ。我子放蕩ニシテ。寢マサニ産ヲ傾キケントス。其濫費以テ燕樂ニ供センヨリハ。寧口汝ガニ與ヘテ以テ善ヲ為スノ用トセント。塵也益辭シテ曰ク。一家ノ主人業已ニ此ハ如シ。安ゾ

別ニ儲フル所アリ。以テ不虞ニ備ヘザルベケンヤ。余一介ノ書生。貴ナキハ固ヨリ分ナルハミ。但、大母ハ惠其賜ヲ拜スルヤ多シト。遂ニ一金ヲ受ケズシテ去ル。其學成ルニ及ビ。柳澤氏新ニ候ニ封セラレ。廣ク名士ヲ招グ。乃チ秩三百石。ハ以テ塵也ヲ聘ス。塵也應ゼズ。蓋シ其仕アルニ苟クモセザルモ。ハアルヲ以テナリ。何クモナク松軒ガ薦メニ因テ。謁ヲ巖村侯ニ釋久。俸二十口ヲ支ルハミ。塵也人トナリ。廉直ニシテ。嚴毅ナリ。初メ儒ヲ以テ仕ヘ。後チ世子ニ傳タリ。世子ノ動作舉止。悉ク規スルニ正ヲ以テス。世子嘗テ齋南ニ就テ一窓ヲ鑿ント欲ス。塵也肯シズシテ曰ク。此レ易事ノミ。然リ而シテ世子タル者ハ。凡ソ百々サニ父侯ノ與アル所ヲ慎守スベシ。而シテ別ニ嗜好アルベカラス。今

世子年少シ。安ヲ問ヒ膳ヲ視ルハ則チ論ナシ。方ニ且ツ學
ヲ講ジ武ヲ演シ。且タコレ暇アラズ。而シテ乃チ心ヲ無益
ニ馳ス。或ハ遂ニ土木園池ノ好ヲ啓クナカランヤ。故ニ事
易シト雖也。敢テ命ヲ奉セズト。世子悄然トシテ曰ク。卿カ
言是ナリ。請フ之ヲ守ラント。世子既ニ立チ。左右ノ少年ヲ
聚メテ嬉戲スルコト度ナシ。塵也。屢諫ムレヒ聽カレス。遂
ニ職ヲ辭スルヲ乞フ。老臣之ヲ白ス。候瞿然トシテ曰ク。吾
過テリ。我レ頑童ヲ昵ミ。耆德ヲ遠サク。此レ彼レ。力辭セン
ト欲スル所以ナリ。吾マサニ過チヲ改ント欲ス。卿等盍ゾ
我ガタメニ之ヲ言ハサルヤト。既ニシテ侯懲艾德ヲ脩メ。
勵精治ヲ圖ル。乃チ大ニ塵也ヲ用ヒ。擢テ、老職ニ陞シ。祿
ヲ増シテ三百石ニ至ル。是時巖村ノ政嚴ニ紀綱ヲ立テ。惇

ク信義ヲ守リ。小大ノ事。必ズ衆ト之ヲ議ス。智者獨リ端ニ
スルヲ得ズ。愚者モ亦過チヲ寡フスルヲ得タリ。是ヲ以
テ吏姦慝ナク。民盜賊ナシ。風俗淳樸ニシテ。上下和輯ス。侯
晋ムデ閣老ニ拜セラル。一時輿稱アリ。實ニ塵也。與リテカ
アリト云フ。或時候ノ妾家子ヲ舉グ。妾ヲ賀スル者。ミナ其
侯家ニ母タルノ重キヲ以テス。獨リ塵也。内ニ入り。毅然ト
シテ色ヲ正フシテ曰ク。爾チ今ヨリ後チ。子ノルヲ恃ムデ
以テ驕リ肆ナルコトナカレ。侯家ノ禍福茲ニアリ。爾チガ
禍福モ亦茲ニ在リト座ニ在ル者悚然トシテ容テ改ム。
塵也。ガ嚴毅廉直ナル。率ネ此類ナリキ。
櫻所子曰。周軒初メ書劍京ニ遊ブ。伯母ガ贈ル所百兩ノ金
ヲ辭シテ受ケズ。安ゾ別ニ儲フル所アリ。以テ不虞ニ備ヘ

サル可ケンヤト謂フ。其業成ルニ及ビ。柳澤侯ノ祿三百石ヲ以テ之ヲ聘スレ氏應ゼズ。而シテ巖村侯ニ仕フル俸二十口。世子ヲ規スル嚴正ニシテ。其傳タルニ耻ヂズ。其既ニ立テ侯トナルニ及ビ。諫メテ聽カレザレバ則チ職ヲ辭セント乞ヒ。能ク世子ヲシテ悔改セシメ。侯ノ側室ノ子ヲ生ム。マタ子アルヲ恃ムテ驕肆ニスルコトヲ戒ム。其嚴毅廉直。亦世ニ匹儔寡クナシ。而シテ周軒ガ褐ヲ釋ク後チノ事マシ其伯母ガ贈クル所ノ金ヲ辭スルノ日ニ於テ之ヲ視ル。孟子曰日月有明。容光必照ト。周軒之謂ナリ。

第十七 伊藤一元ガ少欲知足ナリシ事

伊藤一元ハ冠峰ト號ス。伊勢ノ人ナリ。家世巨商ニシテ。絹紬ヲ賣ルヲ以テ業ト為ス。少シテ質素ヲ尚トビ。儀操ヲ

修メズ。日夜書ヲ讀ム。極メテ勢利ニ淡ク。簿書計度ノ煩ヲ厭ヒ。其生産ヲ以テ之ヲ兄弟ニ委シ。名護屋ニ遊學シ。業ヲ元淡淵ノ門ニ受ク。又醫事ヲ好ミ。自カラ處方ヲ驗ス。名護屋ニ在ル丁五年。後チ諸列ニ登遊シ。晚年美濃ノ笠松ニ隱居セリ。其名護屋ニ在ル時。南宮喬卿ト情交尤モ密也。元淡淵ガ東行シタル後チ。其門人ノ經義ニ從事スル者ハ半ハ喬卿ヲ推シ。歌詩ヲ操練スル者ハ半バ冠峰ヲ敬ク。醫生玄澤ナル者アリ。家資富饒ニシテ頗ル學ニ厚ク。冠峰ト友トシ善シ。久シク冠峰ガ才ヲ愛シ。妹ヲ以テ之ニ妻ハス。益冠峰ヲシテ其業ヲ修メシメ之ヲ贊襄ス。玄澤ノ意蓋シ其歌詩ヲ以テ喬卿ヲ壓倒セントスルニ在リ。冠峰自カラ其意ヲ知リ。眼疾アリト稱シテ。講業ヲ休置シ。其門人ヲシテ喬

卿ニ從學セシム。遂ニ辭シテ郷ニ歸リ。諸州ニ漫遊ス。人ニ
ナ其虛退ナルヲ稱セリ。笠松里ハ名護屋ヲ去ルコト數里
ニシテ近シ。冠峯喬卿ト襟情紆意。舊ニ比スレバ益暱シ。明
和己丑ノ歲。喬卿棄名ヨリ江戸ニ移ル。然レ氏猶ホ其妻子
ヲ以テ之ヲ名護屋ノ族^シ人ニ托ス。是ヨリ先キ妻子ニ約ス
テク。一年ヲ過グレバ人ヲシテ必ズ迎ヘシメント。後チ喬
卿火災ニ遭ヒ。盡ク資給ヲ喪ヒ。經過スルコト既ニ二年餘ニ
シテ之ヲ迎フルコト能ハズ。甚ダ其計ニ窮ス。妻子モ亦數
百里ヲ隔テ、窮迫ノ音耗ヲ聞クニ堪ズ。冠峯妻子ノ意ヲ
憐憫シ。之ヲシテ俄カニ行装ヲ治メシム。蓋シ尾刈ヨリ江
戸ニ至ル。驛程數十日。資錢一夫錢五貫文有ニ非レバ。以テ
其旅費ヲ購フニ足ラズ。然ルヲ況ヤ婦兒三四人。家ヲ舉ゲ

テ行ニ就クヲヤ。冠峯家固ヨリ窮貧ナレバ。田宅ヲ典當シ。
家財ヲ賣却シ。金十五兩ヲ得テ。之ヲ喬卿ガ妻子ニ與ヘ。數
人ヲシテ江戸ニ護送セシム。喬卿懇到ヲ謝シ。其金ヲ復ヘ
ス。冠峯辭シテ受ケズ。冠峯ガ天資謙虛ニシテ。才學頗ル富
ミ。其標格意氣。並ニ一世ヲ推倒スルニ足ル。喬卿屢江戸ニ
徙住シ。教授シテ業ト為シコトヲ勸ムレ氏肯カス。又紀平
洲之ヲ尾刈侯ニ薦メテ儒員トセント欲スレ氏。又肯カズ。
辭シテ曰ク。顏ヲ抗デテ儒者ト稱スルハ。吾ガ能ク及ブ所
ニアラサルナリト。冠峯常ニ謂フ。居ハ以テ膝ヲ容ル。ニ
足リ。衣ハ以テ體ヲ覆フニ足リ。食ハ以テ腹ヲ滿タスニ足
リ。樂ミハ以テ憂ヲ忘ル。ニ足ル。我日ニ安シ。豈其餘ヲ願
ハンヤト。冠峯天明中年七十餘ニシテ歿ス。江北海膏テ冠

峯ヲ評シテ曰ク。冠峯ヲシテ身都下ニ在テ。藝苑ニ馳騁セシメバ。乃チ其名方今ノ赤羽護洲ノ諸子ニ譲ラズト。

櫻所子曰。冠峯ガ謙虛恬退ニシテ。然カモ友誼ニ厚キ。古來其匹儔スクナシト謂フ可シ。今世ノ人士ガ為ス所ヲ視ルニ。學藝未ダ鍊熟ノ域ニ至ラズシテ。早ク之ヲ嚮ガンコトヲ欲シタマタマ其虛聲空譽ヲ博シ得ルニ及ビ。已レト其聲譽ヲヒトシフセントスル者アレバ。舊知親友ト雖モ之ヲ擠倒セントスル類。吾ガ屢見聞スル所ナリ。何況ヤ其妻子ヲ慈憐シ。已レガ田宅ヲ典シ。已ンガ家財ヲ賣リ。以テ旅費ヲ辦スルガ如キモノアランヤ。親友舊知ト雖モ。僅々數十圓ノタメニ。原告トナリテ此ヲ法衙ニ訟フルアリ。或ハ負債ヲ他ニ募ラントスルニ方リ。親友ヲシテ其保證人タ

ラシメ。債主ノ督責急ナルニ及ヘバ。則チ已レガ親愛スル所ノ知友ヲシテ。之ヲ辯償セザルベカラザルノ義務ヲ擔ハシメ。已ハ知ラザルモノ。如クスル等。今世交態ノ浮薄ナル一斑ヲ見ルベシ。是等ノ所為ヲ耻ゲザルノミナラズ。顔ヲ抗ゲテ社會上等ノ人士ヲ以テ自ラ居ル輩。懂々トシテ肩ヲ比ベテ相往來ス。斯輩父兄ヲ欺騙シ。朋友ヲ朘剥ス。白日姦ヲ行フモノト比スルモ亦可ナリ。若シ冠峯ヲシテ斯輩ヲ評セシメバ。將タ之ヲ何トカ謂ン。

第十八 中井積徳ガ韓愈ヲ賤ミタル事

中井積徳。履軒ト號ス。大坂ノ人ナリ。志氣高尚ニシテ苟クモ合セズ。安リニ戸ヲ出デズ。自ラ幽人ト號ス。隱居放言ヲ以テ自ラ居ル。談論奇警ニシテ。動モスレバ輒チ人聽ヲ駭

カス。姿貌魁秀。器宇曠邁ニシテ。一世ヲ睨視ス。少ヨリ老ニ至ルマテ。硤々トシテ經旨ヲ考索シ。手卷ヲ釋カズ。始メ七經離題畧ヲ著ハシ。晚ニ又七經逢原ヲ著ハシ。經旨ヲ發揮シ。益精綴ヲ致ス。世匹儔罕レナリ。巋然トシテ別ニ一家言ヲ為ス。而シテ人ニ知ラル。コトヲ求メズ。塙檢校保巳一トイフ者アリ。國學ノ教授ニ擢デラル。嘗テ大坂ニ遊ビ。履軒ヲ見ント欲ス。市尹街長ニ命ジテ紹介ヲ為サシム。街長以テ告グ。履軒可カズシテ曰ク。我聞ク塙氏ハ。源語勢語等ノ書ニ沈溺スト。我ト道同ジカラサレバ則チ與モニ談ズベキ者ナシト。固辭シテ見ヘズ。市尹某亦履軒ヲ欽慕シ。禮ヲ厚フシテ之ヲ召ス。履軒辭シテ使者ヲ見ズ。使者反命ス。市尹歎ジテ曰ク。所謂天子得テ臣トセズ。諸侯得テ友トセ

ズトハ履軒ノ謂ナリ。其吾使ヲ見サル亦宜ナリト。履軒偶骨董鋪ヲ過ギ。古鐔ヲ見テ。其價ヲ問ハズ。四方銀ヲ以テ之ヲ買フ。鋪主曰ク。此物價廉ナリ。何ゾ此ノ如クナルヲセンヤト。履軒強テ之ヲ與ヘ。鐔ヲ獲テ以テ還ル。門人一見シテ歎ジテ曰ク。嘉品ナリ。請フハ方銀ヲ以テ之ヲ獲ント。許サズ。固ク請フ。乃チ之ヲ許ス。履軒是ニ於テ其加フルトコロノ四方銀ヲ懷ロニシ。往テ鋪主ニ與フ。鋪主恠ムデ之ニ迹シ。審カニ名居ヲ察シ。其碩儒履軒タルヲ知ル。以為ク金ヲ還ス。氏必ズ受ケザラント。鮮魚ヲ籃ニシ。朝夕ニ其家ニ投ジテ去ル。又松平和泉守使ヲ遣ハシテ履軒ヲ聘ス。則チ壁櫨ニ入テ之ヲ避ケテ見ヘズ。古賀精里之ヲ評シテ曰ク。履軒ハ天下ノ偉人ナリ。設チ水ニ似タリト。履軒嘗テ韓愈ガ

三たび宰相ニ上ツルハ書ヲ目シテ乞食ト謂フ其仕進ヲ求ムルニ急ナル馬兒ハ物ヲ乞フニ似タルヲ賤シタルナリトゾ。

櫻所子曰。積徳ガ學問文章ニ就テ評スルハ暫ク措キ其猶介廉潔ナルニ至テハ近世ノ儒者ニ於テ傳類太ダ稀ナルノミナラズ漢唐ノ昔ニ溯ルモ猶ホ絶テ無クシテ僅カニ有ルモノナリトス。夫ノ韓愈ノ若キハ一代ノ文宗ニシテ仕進ヲ求ムルニ急ニシテ而シテ其富貴榮華ニ汲々タル真ニ冷笑スルニ堪タリ。然ルニ世ノ儒士タルモノ之ヲ仰望シテ泰山北斗ノ如クス。宜ナル哉。歐學ノ一タヒ東邦ニ行ハレテヨリ。儒術漸ク衰廢シ自治自主ノ說日ニ盛ナニ至リ。仁義道德ノ說ヲモ併セテ世ノ士君子ノ之ヲ模範

トスルモノ鮮キニ至レルコトヲ是其道ノ罪ニアラズ。實ニ儒士タルモノ、卑劣ニシテ利祿ヲ干ムルニ急ニシテ。算計其樂ミヲアラタメザルホドノ道德ナキヲ以テナリ。積徳獨リ群儒ノ中ニ屹立シテ名奔利走ノ輩ト伍スルコトヲセズ。他ノ韓愈ヲ仰グヲ泰斗重ナラザルニモ拘ハラズ。其二たび宰相ニ上ルノ文ヲ目シテ乞食文ト謂フガ如キ。大ニ尋常腐儒ト同視スベカラザルモノアリ。而シテ其學識ハ自ラ掩ヒ晦マス能ハザルモノアリテ當時履軒ノ名遠近ニ稱セララル。今世ノ人士口ヲ開ケバ輒チ曰フ。交際ヲ貴フ社會ニ求メ以テ智識ヲ交換スト。而シテ其會同シテ或リヲ結ブヲ觀ルニ酒ヲ戰ハシ碁ヲ圍ミ或ハ妓ヲ聘シテ歡ヲ助ケ言語喧嘩。主客各辭セズシテ散シ去ル何ノ

智識ヲカ交換スルヤ。我ガ得テ解セザル所ナリ。而シテ其
交際ヲ求ムルコト。如此ソレ汲々タルモ。其世ニ知ラル、
コトハ。妄リニ戸ヲ出テス。幽人ト稱セル中并積德ニ及バ
サルコト遠シ。且ツ恆ニ自治獨立ヲ談スルヒモ似ズ。其所
為或ハ積德ガ嘲笑セル。韓愈ノ乞食文ヲ類スルアリ。是ニ
由テ之ヲ觀レバ。積德ガ廣介ナル。其守操深ク重ンズベキ
者アルナリ。

第十九 仙石氏ガ清廉剛勇ナリシ事

三都ノ地。妓院ニ隸セズ。市井ニ雜居シテ。淫ヲ賣ルモノ。俗
ニ稱シテ地獄ト曰フ。支那ニ所謂私窠子ナルモノナリ。謂
ツ。ハシ廉耻地ヲ掃フト。然レトモ無告ノ民窮鋒髓ニ入り。
此ニ墮落シ。僅カニ以テ活ヲ取ル。マタ憫ムベキモノアリ。

今ヲ距ル廿餘年。浪華富商ノ子嘗テ父ノ命ヲ以テ京都ニ
貿易ス。二百金ヲ索ニシテ。某街ナル地獄ノ家ニ投宿ス。去
ルニ臨ム。テ索ヲ遺ル。途ニシテ之ヲ覺トル。自ラ以為ク。彼
レ淫ヲ賣テ世ヲ汚ル。何ゾ人間マタ理義アルヲ知ラシ
ヤ。回リ求ムルハ痴ナリト。歸テ之ヲ監奴ニ謀カリ。以テ之
ヲ補ハシム。監奴竊カニ歎ジテ以為ク。郎君金ヲ視ルコト
土塊ノ如クス。實ニ富家ノ郎君ナリ。然リト雖モ吾儕金ヲ
以テ生活ヲ為ス。今一タビ探求スルコトヲモ試ミズシテ。
二百金ヲ不問ニ措クハ。暴殄ニ近カシ。抑モ亦別ニ費ス所
アリ。之ヲ此ニ託スルモ亦未ダ知ルベカラサルナリト後
々事ヲ以テ京師ニ往キ。其家ヲ過ギテ宿ス。從容トシテ女
ニ語テ曰ク。吾ハ是浪華ノ客ナリ。某月某日。吾友曾テ來リ

宿シ。為メニ汝デガ光麗ナルヲ艶説ス。吾心動キ以テ來ル所ナリ。知ラズ汝デ其人ヲ記スルヤ否ヤト。因テ詳カニ其風貌年齒ヲ説ク。女驚テ曰ク。信ニ然カリ。妾能ク之ヲ記ス。遺ス所ノ物アリ君聞知ルヤ否ヤト。監奴曰ク。實ハ我ガ郎君タリ。乃チ之ニ實ヲ告ゲ。且ツ其素章ヲ語ル。女曰ク果シテ信ナリ。里替姓名ヲ審カニセザレバ。未ダ之ヲ致スニ由シアラス。母氏ニ白フシ。深ク藏メ以テ其再ビ來ルヲ待ツト。出シテ之ヲ呈ス。監奴驚喜シテ謝シテ曰ク。覆水盆ニ還ル。一ニ阿孃ノ厚誼ニ出ヅト。乃チ金三十兩ヲ把テ之ヲ與フ。女卻ゾケテ曰ク。君ニ出デ、君ニ歸ル。妾ニ何アランヤ。敢テ辭スト。之ヲ強ユレトモ竟ニ受ケズ。歸ルニ臨ムデ之ヲ戸隙ニ投ジテ走リ出デ。家ニ抵リ具サニ主翁ニ語ル。

主翁咨嗟シテ曰ク。是真ニ泥中ノ蓮華ナリ。而シテ薄命此ニ至ルハ真ニ閔ムベシ。我取テ以テ児ガ小妻トシ。母子ヲシテ永ク苦境ヲ脱離セシメント欲ス。汝デ試ミニ児ガ意ヲ候ガヘト。乃チ告グルニ其言ヲ以テス。欣然トシテ之ニ從フ。是ニ於テ往テ母子ニ謀ル。曰ク。穢褻生ヲ為ス。何ゾ収録ヲ辱カシムルニ足ランヤ。敢テ辭スト。強テ而シテ後チ聽ルス。輒チ相拉シテ還リ。為メニ別房ヲ某街ニ營ミ。土木園庭頗ル瑰麗ヲ極ム。一タ兇賊五人。戸ヲ排シテ直チニ入リ。奴婢ヲ縛シテ及チ母ノ胸腹ニ擬シ。以テ金ヲ出スヲ責ム。女間ヲ伺ガヒ躲去シ。薙刀ヲ提ゲ來リ。立ドコロニ二人ヲ斬殺ス。三匪畏怖シテ逸ス。詰朝之ヲ主翁ニ報ジ。狀ヲ具シテ市尹ニ白フス。尹之ヲ召シテ逐項檢問シ。其父ト貫籍

トニ及ビ。女荷面紅ヲ潮シテ曰ク。妍毛僅カニ乾キ。母抱テ
郷ヲ去リ。蓬轉萍移以テ此ニ至ル。故ヲ以テ毫モ省記セズ。
幸ニ置テ問フコト勿レト。吏曰ク。是緊要ノ事ナリ。法ニ於
テ刪抹スルヲ得ズ。況ヤ汝デ母アリ。豈ニ之ヲ知ラサルノ
理ヲランヤ。女乃チ慘然トシテ頭ヲ垂レテ曰ク。妾ガ父ハ
故出石ノ家老仙石某トナス。父就命ノ日。闔家放タル。時ニ
妾母ノ懷ニ在リ。流離困頓。備サニ辛楚ヲ嘗ム。母老テ善ク
疾ム。妾長ジテ無能ナリ。反哺スルニ術無ク。身ヲ汚カス此
ニ至リ。ハテ辱メヲ祖先ニ貽ルト。泣言ト。モニ下ル。聞ク
モ。為メニ惻然タリ。研審査報。事既ニ畢リ。吏竊カニ主翁
ニ語リテ曰ク。清廉嘉ミス可ジ。其勇男子ニ軼グ。洵ニ以テ
父ノ惡ヲ掩フニ足レリ。汝デ竟ニ善ク之ヲ視ヨト。主翁始

メテ巨室ノ子タルヲ知り。改メテ禮ヲ具ヒテ以テ子ノ婦
ト為ス。事安政四年ニ在リト云フ。
櫻所子曰。往古來今。貴トナク賤トナク。其形神ヲ驅役シ。營
營トシテ懈ラサル所以ノ者。究竟スル所利ノタメニアラ
ザルハナシ。故ニ貨殖傳ニ曰ク。賢人深ク廊廟ニ謀カリ。朝
廷ニ論議シ。信ヲ守リ節ニ死シ。隱居巖穴ノ士。名ノ為メニ
高ブル者。安ニカ歸スルヤ。富厚ニ歸スルナリト。又曰ク。壯
士軍ニ在リ。城ヲ攻メテ先登シ。陣ヲ陷レ敵ヲ卻ゾケ。將ヲ
斬リ旗ヲ奪リ。前ハデ矢石ヲ蒙ムリ。湯火ノ難ヲ避ケサル
者ハ。重賞ノ為メニ使ハル。ナリ。其閭巷ニ在ル少年。攻剽
椎埋。人ヲ劫カシ奸ヲ作シ。冢ヲ堀リ幣ヲ鑄。任俠并兼。交リ
ヲ借リ讐ヲ報ジ。幽隱ヲ篡逐シ。法禁ヲ避ケス。死地ニ走ル

コト驚スルガ如シ。其實ハミナ財用ノタメノミ。今夫ノ趙女鄭姫。形容ヲ設ケ。鳴琴ヲ撰シ。長袂ヲ揄ゲ。利屣ヲ躡ミ。目挑ミ。心招ギ。出ルコトハ千里ヲ遠シトセズ。老少ヲ擇バザルモノハ。富厚ニ奔ルナリ。游閑公子。冠劍ヲ飾ザリ。車騎ヲ連ヌルモ亦富貴ノタメニ容テヅクルナリ。弋射漁獵。晨夜ヲ犯カシ。霜雪ヲ冒カシ。阮谷ニ馳セ。猛獸ノ害ヲ避ケザルハ。味ヲ得ルガタメナリ。博戲馳逐。雞ヲ闘ハシ。狗ヲ走ラシ。色ヲ作シテ相矜リ。必ズ勝ヲ争フモノ。失負ヲ重シズレバナリ。醫方諸食伎術ノ人。神ヲ焦ガシ。能ヲ極ムルハ。重糈ノタメナリ。吏士ガ文ヲ舞ハシ。法ヲ弄シ。章ヲ刻ガシ。書ヲ偽ハリ。刀鋸ノ誅ヲ避ケザルモノハ。賂遺ニ没スルナリ。又曰久。故ニ曰フ天下熙々トシテ。皆利ノ為メニ來リ。天下壤々

トシテ。皆利ノ為メニ往ク。夫ノ千乘ノ王。萬家ノ侯。百室ノ君。尚ホ貧ヲ患フルアリ。而ルヲ況ヤ匹夫編戶ノ民ヲヤト。是真ニ上下貴賤ニ論無ク。智愚巧拙ヲ問ハズ。富利ノタメニ汲々タル形態ヲ描寫シテ。遺漏ナシト謂フベシ。此ノ如クナルヲ以テ。南陽ノ魯褒ハ。錢神論ヲ作り。其中ニ於テ謂ヘルコトアリ。曰ク。錢ノ體タル乾坤ノ象アリ。之ヲ親ムト兄ノ如クス。字シテ孔方ト曰フ。德無クシテ尊ク。勢ヒ無クシテ熱ス。金門ヲ排シテ紫闥ニ入り。危モ安スカラシム可ク。死モ活セシム可ク。貴モ賤ナラシムベク。生モ殺サシム可シ。是故ニ忿争錢ニアラザレバ勝タズ。幽滯錢ニ非レバ拔ケズ。怨讐錢ニ非レバ解ケズ。令聞錢ニ非レバ發セズ。洛中ノ朱衣。當途ノ士。我ガ家兄ヲ愛シテ皆ナ已ムコトナシ。

我ノ手ヲ執リ。我ヲ抱テ終始ス。凡ソ今ノ人ハ惟錢ノミト。
古來利ノタメニ奔走スルコト此ノ如シ。然リ而シテ尊卑
貴賤各自其分アリ。苟モ廉耻ヲ重ムズルモノハ。卑賤ノ家
ニ求ムルモ容易ニ得ベカラズ。而シテ貴豪ノ家ニ於テモ。
間亦廉耻傷ブリ耻ヲ知ラサルモノアルニ至ル。今仙石氏
ノ如キ。人世最下等ノ醜事ヲ以テ生ヲ營ムモノナリシニ
アラズヤ。假令其大夫ノ家ニ生レタルモノナルニ由テ。自
ラ廉耻守リ食ヲ厭フノ餘習ヲ具フルアリトモ。氣ハ居ニ
由テ移リ。體ハ養ヒテ變ズルハ人ノ常態ナリ。然ルニ
居ル所穢褻ナル此ノ如クニシテ。移ラズ變ゼズ。其清廉剛
勇ナル稟賦ニ出ルト雖モ。抑モ亦母氏ガ雅訓ノ以テ之ニ
達スルモノアルニ非ズンバ。豈能ク此ノ如クナルヲ得ム

ヤ。思フニ前ニ引ク所ノ太史公ガ貨殖傳曾褒カ錢神論ノ
如キ。世間ノ情態ヲ曲盡セルノミナラズ。暗ニ當時ノ風俗。
利ニ趨リ富ミヲ羨ムノ太甚シキヲ諷刺セルモノタリ。漢
代ノ古ハ晉時ノ昔シ。猶小且ツ然リ。況ヤ今世ニ於テヤ。
人智漸ク開達スト雖ドモ。廉耻漸ク地ヲ掃フ。風浮薄ニ流
ガレ。俗澆漓ニ趨ムキ。大丈夫ヲ以テ自負スル者ト雖モ。尚
ホ且ツ利ヲ見テ義ヲ忘レ。危キニ臨ムデハ苟クモ免カル。
況ヤ日ニ牙籌ヲ執テ。錙銖ヲ競ヒ毫厘ヲ争フノ徒ヲヤ。若
シ彼輩ヲシテ此女ノ風ヲ聞カシメバ。豈ニ赧然タルナキ
ヲ得ンヤ。

第二十 鑒道菴ノ清介ナリシ事

道菴ハ。何許ノ人ナルヲ知ラズ。江戸神田豐島街ニ僑居ス。

妻子モ無ク、僮僕モ無ク。躬ラ薪水ヲ執リ、怡然トシテ自カ
ヲ安ンズ。性間淡ニシテ、醫術ニ精ハシ。富人治マセバトモ
ハ、辭シテ應ヘズ。貧困ナル者ハ、則チ竭蹶シテ之ニ赴ク。同
街ニ藥舗アリ。善ク之ヲ視ル。凡ソ藥資ノ至ルトキハ、封ヲ
發セズ。數ヲ照サズ。直チニ之ヲ藥舗ニ委ダヌ。時ニ隨テ給
ヲ取り、未ダ曾テ計算ヲ問ハズ。或ハ謝セザルモノアレバ、
毫モ意ヲ經ズシテ、寒暑ヲ賓賤ス。金ヲ擲ムデ、柳原ノ浮舗
ニ就キ。軀ニ適スルモノヲ擇ムデ、之ヲ買ヒ、脱スル所ノ故
衣ヲ抱キ、途次ニテ乞丐老病ナル者ヲ視レバ、之ヲ與フ。出
入寢起、惟一衣ノミ。故ヲ以テ恒ネニ垢敝綻裂ヲ極ハム。頭
剃ルコト罕レニシテ、栗殻ノ如ク然リ。洗浴動モスレバ、時
月ヲ逾ユ。一タビ皮膚ヲ搔ケバ、塵垢瓜ニ滿ツ。人目シテ垢

道菴ト曰フ。道菴之ヲ聞キ笑テ曰ク。善シ。因テ亦垢道菴ト
稱ス。時ニ妓館ニ遊ババ、必ズ醜貌售レザルモノヲ買ヒ、酒
飲ヲ命ジ、歌舞ヲ奏セシメ、興酣ナルニ及ンデ曰ク。足レリ。
樂ミ何ゾ極ム可クンヤト。房ニ入ラズシテ去ル。或ハ刺金
アルトキハ、轎ヲ賃スル、亦必ズ老夫ニ於テス。往クコト五
六町。轎ヲ下テ曰ク。轎ハ歩スルニ如カザルナリト。錢ヲ與
ヘテ多ヲ辭スレバ、喻シテ曰ク。歩ハ則チ我ガ便ナリ。約同
ゾ違フベケンヤト。投ジテ去ル。暮年名大都ニ噪グ。一日行
脚僧アリ。來テ曰ク。同伴者途ニシテ篤疾ニ罹リ、増上寺ノ
支院ニ投養ス。曰ク。先生ノ藥ヲ服スルヲ得バ、斃ル、トモ
憾ミズト。幸ニ診セヨ。道菴曰ク。諾。明日藥囊ヲ臂ニシテ往
ク。僧袈衣莊飾シテ之ヲ坐ニ延キ。謝シテ曰ク。僧正疾ミ。百

方驗ナシ。久ク鴻名ヲ聞キ。一診ヲ得ント欲ス。然レ氏之ヲ
招グ。來ラザランヲ恐ル。故ヲ以テ吾儕誘テ之ヲ致ス。幸ニ之ヲ恕セヨト。道菴慨然トシテ濕笑シテ曰ク。我高貴
ヲ療ズルコトハ未ダ嘗テセズ。例ヲ破テ之ヲ診セント。乃
チ診シテ曰ク。是ハ死病ニ非ルナリ。為スベキナリト。乃チ
劑ヲ作ル。衆大ニ悦ビ厚ク之ヲ待シ。還ルニ及ビ轡ヲ命ズ。
道菴頭ヲ掉テ曰ク。之ヲ去レト。自ラ藥囊ヲ臂ニシテ歩シ
テ歸ル。後チ果シテ愈ユ。厚ク之ヲ謝シ。且ツ欲スル所ヲ問
フ。答ヘズ。僧正竊カニ街長ニ喻シテ曰ク。翁老タリ。或ハ窮
乏スルアラバ必ズ報セヨト。居ルコト數年疾ニ罹ル。乃チ
報ズ。數存問シテ珍羞ヲ加餽ス。一日藥鋪來リ謂テ曰ク。屢
先生ノ鄉賢親戚ヲ問フ。而シテ告ゲズ。今先生疾ム。恐クハ

起タリラン。願クハ親戚ヲ招ギ俱ニ之ヲ視。且ツ後事ヲ謀
カレト。一簿ヲ呈シテ曰ク。出入ヲ乘除シテ。餘金若干アリ。
請フ歸附スル所ヲ得ント。道菴頭ヲ掉テ曰ク。吁。吾々我弱
喪蓬轉シテ鄉貫ヲ知ラス。久ク厚意ヲ荷フ。今汝ノ手ニ死
スルハ。實ニ奇因縁ナリ。旦暮ノ人金ニ何カフランヤト。目
ヲ文簿ニ寓セズ。後チ是事ニ及ベバ答ヘズ。死スルニ及ビ
僧正導師トナリテ。之ヲ其先兆ノ側ラニ竈セリトイフ。
櫻所子曰。或人余ニ謂テ曰ク。演劇ハ善ク人情世態ヲ寫シ
出セルモノナリ。貴官ノ閑雅。妃女ノ婉柔。武人ノ慍悍。奴僕
ノ粗野。其風采態度ヲ曲盡セサルハナシ。而シテ院本ヲ讀
ミ劇ヲ觀ルニ。未ダ曾テ僧ト鑒トノ嘉點ナラサルハナキ
モノ。恰モ婦女ノ扮装ヲナスモノ。必ズ悲泣啼哭セザルナ

キト一般ナリ。是世上ノ僧タリ。鑿タルモノ。道德ト仁術トヲ以テ。其外面ヲ裝飾スト雖ドモ。姦黷ナル者多カリシ事ヲ寫シ出セルモノナルベシト。此評ノ允當ナリヤ否ヤハ暫ク措テ論ゼズシテ可ナリト雖トモ。日夜道德ノ教ニ薰染スル所ノ僧。終歲仁ノ術ヲ事トスル所ノ鑿ハ。共ニ是レ道德仁術ニ慣習スルノ久シキニ及ベバ。翻テ靈泉ノ傍ニ住スル者ハ。靈泉其身ニ効ナク。藥餌ヲ服スルコト數年ニ及ブモノハ。藥効自ラ薄ク。恒ニ酒ヲ嗜ミ痛飲スルモノハ。美酒醇醪ヲ飲ムト雖ドモ。酔フコト自ラ遅クシテ。酒量ノ漸次ニ増スモノ、如クナルカ。余世ノ僧タリ鑿タル人ヲ見ルニ。僧ニシテ其德義ノ復カニ在家ニ劣リ。鑿ニシテ其仁術ヲ以テ佞術トスルモノ。太ダ鮮ナカラサルモノ、如

シ。然レバ則チ或人ノ言。亦奚ゾ院奉ノ作者ガ。幽意微旨ヲ看破セルニハ非ズト言フヲ得ンヤ。夫ノ道菴ノ若キ身貧賤ニ安ムジ。未ダ嘗テ尊貴豪富ノ門ニ過ギラス。其名利ヲ視ルコト。附贅懸疣ノ如クス。靈府灑然トシテ。一點ノ塵垢ヲ存セズ。其形狀ニ由テ。世人ハ目スルニ垢道菴ヲ以テシタリ。余ハマサニ其精神ニ由テ。之ヲ稱歎スルニ無垢清淨ヲ以テセントス。況ヤ其為ス所ヲ察スルニ。故衣ヲ乞フ老病者ニ施シ。妓ノ醜貌售レサル者ヲ買ヒ。老夫ノ轡ヲ賃スル等。ミナ尋常ニ異ナル所ナリ。富人治ヲ乞フトキハ之ヲ辭シ。貧困者ハ則チ竭蹶シテ之ニ赴クトイフニ至テハ。其濟物ハ仁ト。清介ハ操トハ。實ニ高風遠韻。以テ鄙汚躁急ノ疾ヲ鑿スルニ足ル謂ツベシ土木ヲ外ニシテ。金玉ヲ内ニ

スルモノナリト。今世鑒學大ニ進ミ。人ヲシテ壽域ニ躋ボ
ラシムル其人アリト雖ドモ。其濟物清介。道菴ニ似タルモ
ノヲ見ント欲スルモ。亦得易スカラズ。嗚呼其潛德幽光。實
ニ敬崇スベキモ。アリ。世人徒ニ之ヲ目シテ奇人トシ。而
シテ其行為ヲ視テ。翻テ之ヲ嘲笑シ。清廉無垢ノ人ヲ侮蔑
スルト勿レ。

第廿一 小島蕉園金ヲ卻ケテ受ケザリシ事

小島蕉園名ハ公倫。武蔵江戸ノ人ナリ。讀書ヲ好ミ善ク文
ヲ屬ス。稟性清介ニシテ。才治民ニ長ズ。褐ヲ釋テ德川氏ノ
親藩田安侯ノ稅官トナリ。甲斐ニ徙テ居ル。甲斐ノ民俗タ
ルヤ。頑悍ニシテ頗ル治メ難シトナス。蕉園府ニ入ル。首ト
シテ民ノ利病ヲ察シ。精ヲ勵マシテ治ヲ講ズ。未ダ數年ヲ

出スシテ。惠政德化部内ニ洋溢シ。人神明ト稱ス。父老相告
ゲテ曰ク。從前ハ吏ハ大抵治メスシテ之ヲ擾ダス。擾サス
ハテ之ヲ治ムル者ハ獨リ此君アルハイト。後チ其職ヲ得
ザルアリ。自ラ効シテ江戸ニ還リ。磯野弘道ニ從ヒ。鑒ヲ學
ンデ其奧妙ヲ窺フ。後チ本郷竹街ニ僑居ス。屋宇矮陋。僅カ
ニ風雨ヲ蔽フ。嘗テ德本ノ風ヲ慕ヒ。治ヲ乞フ者アレバ。青
囊ヲ肘ニシテ往キ。藥資ヲ取テ去ル。妻已ニ死シ。獨リ母ト
居ル。膝下ノ色養。數水ノ歡ヲ盡ス。甲斐ノ父老相謂テ曰ク。
吾黨ノ今日アルハ。君ノ惠多キニ居ルニアラスヤ。聞ク頃
來内ヲ喪ヒ且ツ貧窶ナリト。報酬スル所ナクンバアルベ
カラザルナリ。甲唱ヒ乙和シ。立トコロニ百金ヲ獲タリ。其
面ヲ知ルモノ三人。衆ニ代リ金ヲ齎ラシテ來ル。母出デ、

門ニ應ズ。三人地ニ伏シテ恩ヲ謝シ候ヲ問フ。情辭色ニ溢ル。金ヲ取テ之ヲ呈ス。母吁嗟良久フシテ謝シテ曰ク。厚意謝スレドモ曷ゾ罄キンヤ。但我ガ児猶介ニシテ人ノ惠ニ當タルコトヲ欲セズ。然リト雖ドモ適在ラザレバ。吾將サニコレヲ藏シテ其還ルヲ俟タントス。請フ明日復タ來レト。皆拜謝シテ去リニギ。蕉園ガ還ルニ及ビ。母具サニ之ヲ告グ。蕉園亦嘆嗟シテ曰ク。方今情義薄キコト紙ノゴトシ。儼然タル士大夫ト雖ドモ。德義ノ何事タルヲ知ル者或ハ希レナリ。何況ヤ。農夫ヲヤ。何況ヤ。頑悍ニシテ化シ難キ甲民ノ如クナル者ニ於テヲヤ。而シテ今此ノ如シ。亦以テ以ク母ノ心ヲ慰スルニ足ランカ。然リ而シテ民ノ物一介ヲモ受ケズ。況ヤ百金ノ重キヲヤ。尊旨果シテ何如。母曰ク。吾

固ヨリ其然ルヲ知ル。然レドモ直チニ之ヲ卻ゾケハ其厚意ヲ傷ブル。且ツ專斷事ヲ處スルモ。亦吾ノ道ニアラス。故ニ權リニ収メタルノミト。蕉園大ニ喜ビ請フテ曰ク。之ニ飲食セシメ。勞フニ人事ヲ以テセント欲ス何如ト。母曰ク。善シ。明日自ラ往キ。團扇ト酒般トヲ買ヒ。母料理シテ以テ其來ルヲ待ツ。既ニシテ來リ。膝行厥角。恩ヲ拜シ德ヲ謝ス。蕉園之ニ座ヲ與ヘ。縷々慰謝シテ。共ニ往事ヲ談シ。之ニ飲シ之ニ食シ。且ツ貽ルニ團扇ヲ以テス。情意極メテ厚シ。民感極テ淚下ル。既ニシテ金ヲ取り之ヲ卻ケテ曰ク。汝曹故ヲ忘レス。暑ヲ冒シテ來リ訪フ。況ヤ釀金シテ吾カ窮乏ヲ周ハントス。厚誼何如トセンヤ。然リト雖ドモ嚮ニ施行スル所ハミナ公命ニ出デ。私惠ニアラス。民ニ在テ私ニ報

ユルハ義ヲク我ニ於テ私ニ受クルハ理ナシ。藥ヲ賣テ生
ヲ營ミ母モ亦貧ヲ安シズ。請フ念ヲ煩ハスコト勿レ。歸ル
ノ日善ク我ガタメニ衆ニ謝セヨト。ミナ愕然トシテ反復
之ヲ致スト雖ドモ可カズ淚ヲ垂レテ之ヲ言ヘ。亦淚ヲ収
メテ之ヲ拒ム。相爭フコト多時。終ニ受ケズ。民咨嗟シテ金
ヲ懷キテ拜辭シ。低頭顧望。久フシテ後ニ去ル。其還ルニ及
ビ衆ヲ聚メテ具サニ其狀ヲ話ス。皆感激シテ相泣ク因テ
其金ヲ以テ生祠ヲ建テ之ヲ祠ルト云フ。田安侯ノ封邑
參河ニ在ルモノ。地水旱ニ苦ミ其民俗偷惰狡猾ニシテ頗
ル治メ難キヲ病ム。公蕉園ガ鑒民ニ長ズルヲ以テ使ヲ遣
ハシテ之ヲ召聘ス。蕉園固辭ス。使者相望ミ遂ニ任ニ赴ク。
治績粗顯ハル。既ニシテ痛ヲ患ヘ年六十一ニシテ卒ス。蕉

園再娶セサルヲ以テ子無シ。其志行獨介廉潔ニシテ。故屬
ヲ表襮トナスコトヲ欲セズ。甚ダ泛交ヲ惡ム。金蘭相契ル
モノ至テ稀ナリ。嘗テ岡本某ノ第三子ヲ以テ嗣ト為サン
トス。歿後故アリテ果サズ。遂ニ其祀ヲ絶ツ。而シテ甲民ノ
香火ハ久シク衰ヘズト云ス。

櫻所子曰。蕉園ノ治民ニ長ズルハ。廉潔獨介ノ常倫ニ超絶
スルアルヲ以テナリ。夫ノ徳川氏ノ季世。國侯邑主ヲ除ク
ノ外。人民ヲ保護スルノ重キヲ舉ゲテ。之ヲ代官ニ委ス。而
シテ其代官タルモノハ。祿薄ク秩卑キヲ以テ。翻テ其任
ノ重クシテ責ノ大ナルコトヲ忘レ。動モスレバ民ヲ治メ
ズシテ之ヲ擾ダシ。宣化勸農ノ何事タルヲ知ラズ。其屬吏
ノ如キ。貪婪無識ニシテ。恣ニ民ノ膏血ヲ朘削シ。運剥悍鯨

ニ及ビ、民怨ヲ買テ官ニ貽ラザルモノ殆ント希ナリキ。是
固ヨリ武門專制ノ世。政弊日ニ積疊スルノ時ナリシヲ以
テ良臣循吏其人ニ乏シク。上ニ王侯アリ。下モ百官ヲ設ク
ルハ。至竟斯氓ヲ保護スルガ為メニ非ルナキコトヲ解知
セザリシニ由ル。然ルニ蕉園此政弊積疊ノ時ニ在テ。屹然
トシテ獨リ狷介廉潔ヲ守リ。貧ヲ安ムジ困ヲ甘ムス。恰カ
モ梅花ノ霜雪ニ傲リ。蓮華ノ淤泥ヲ出デタルガ如シ。其高
風清節。實ニ欽仰スベキモノタリ。思フニ任ヲ地方ニ受ケ。
人民ニ親接スルモノ。廉潔ヲ守ルヲ以テ第一トス。若シ百
般ノ政務。闕漏アルコトナシト雖ドモ。一ノ廉清ヲ闕クト
キハ。吏能アリト雖ドモ。必ス怨嗟アルヲ致タリ。婦ニシ
テ妬マザレバ百拙ヲ掩フ。吏ニシテ貪ラザレバ百不能ヲ
掩フベシ。今ヤ政清ク刑肅シ。舞文弄法ノ跡全ク絶滅シ。厚
賂重遺以テ姦ヲ計ラントスル者。亦全ク踪形ヲ藏リム。然
リト雖ドモ廉清蕉園ノ如キ人ヲ求ムルトキハ。必ズ太々
多キコトアラザルベシ。然レバ則テ斯事ヲ叙シ。以テ天下
後世。吏士タルモノ。模範トナスモ。亦全ク徒勞ニアラザ
ルベキヲ信ズルナリ。

第廿二 販魚者谷平遺金ヲ還ヘシタル事

上野新田郡酒井村アリ。秋社肆ヲ張テ市ヲ為ス。尾島村ノ
販魚者谷平トイフモノアリ。市ニ適ク。途ニ安養寺村ヲ過
グ。墓樹上群鴉喧噪スルコト太甚シ。谷平以為ク。墓間何ノ
恠異カアルト。旋行テ之ヲ矚フ。文蛇ノ碑間ニ横タハルヲ
見ル。谷平謂ク是ナリト。シバラクアリテ蛇動カス。漸ク就

テ之ヲ視レバ則チ棉絲絲綵ナリ。之ヲ牽ケハ則チ布囊出
ツ。之ヲ啓ケバ則チ金五十兩アリ。封題シテ卯兵衛ト曰フ。
谷平人ニ駭キ。尋思シテ以為ク。安養寺村ニハ。多寶ナル者。
唯一卯兵衛アルノミト。渠儀市ニ適キテ之ヲ遺トセルナ
リト。乃チ其金ヲ懷ロニシテ往ク。卯兵衛果シテ肆ニ在リ。
疾呼シテ問テ曰ク。卿遺ス所アリヤト。卯兵衛頭ヲ掉テ曰
ク否々。谷平以為ク。衆人中ニシテ之ヲ言フ。吾ガ過ナリ
ト。乃チ之ヲ去リ。幣酤市散ジテ復々往ク。就テ問ステ曰ク。
君遺ス所アルカト。卯兵衛復々曰ク否々。谷平以為ク。猶ホ
他人ノ室ニ在ルヲ以テナリ。亦吾過テリト。又之ヲ去リ。其
歸ルヲ時トシテ。其家ニ踵リ見ユルヲ請フ。卯兵衛曰ク何
ノ言フ所ゾヤ。谷平曰ク。卿必ズ遺ス所アルナリ。蓋ズ我ガ

タノニ之ヲ言ハリルヤ卯兵衛曰ク。否々。谷平慍テ曰ク。五
十兩ノ金。題シテ卯兵衛ト曰フモノ。卿ニ非ズシテ復々何
ノ卯兵衛ナルヤト。囊ヲ取テ其前ニ投ジ。因テ以テ金ヲ得
タル所以ノ者ヲ告グ。卯兵衛肯テ金ヲ受ケズシテ曰ク。此
ハ我レ之ヲ遺トス。既ニ吾ハ有ニ非ズ。而シテ子之ヲ拾ハ
即チ子ガ財ナリ。吾何ゾ與カランヤト。谷平ガ曰ク。吾之ヲ
拾ハニ非ルナリ。コレヲ卿ニ還サント欲スルガ故ニ之ヲ
舉ゲタルハ。固ク相譲リ。皆肯テ取ラズ。卯兵衛又予シ
テ之ヲ思フコトヤ。久フシ。熟視シテ言テ曰ク。予強辯シ
テ我ニ托ス。マタ能ク天ニ托スル歟ト。曰ク。能ハス。卯兵衛
乃チ曰ク。我レ市ニ適ク。過ギテ墓ヲ拜ス。事ナキナリ。夫ノ
金ハ人ノ重ンズル所ナリ。而シテ我偶之ヲ遺トス。豈ニ天

ニアラズヤ。鵲噪ギ蛇偃シ。子ヲ導キ之ヲ拾ハシムルモ。亦
天ナリ卯兵衛ハ天ニ違ヒ而シテ金ヲ取ルコトヲ得ズ。谷
平亦安ンゾ天ニ違ヒ而シテ金ヲ還スコトヲ得ンヤト。谷
平嘿然タルコト之ニ久フシテ乃チ曰ク。谷平天ニ違ハズ。
天他人ヲシテ之ヲ拾ハシムレバ則チ他人ハ有トリ谷平
ハ義トシテ苟クモ取ラズ拾フコトアレバ必ズ主ヲ訪フ
テコレヲ還ヘスモナリ。今天苟クモ之ヲ取ラザル谷平
ヲシテ之ヲ拾ハシム。谷平ハ則チ主ヲ訪フテ還ヘス。是レ
天ハ道ヲ奉ズルナリ。卿爲ンゾ復々辭スルコトヲ得ムヤ
ト。言畢リ趨テ出ヅ。卯兵衛猶ホ囊ヲ提ゲ之ヲ追フテ及バ
ズ。歳竟ニ至リ。米ニ苞金二分ヲ餽テ谷平ノ壽ヲ爲ス。歳々
以テ常ト爲シ。谷平ノ身ヲ終フ。卯兵衛親ニ事ヘテ孝アリ。

親歿シ將サニ他ニ遷ントスルトキハ必ズ墓ニ謁シ而シ
テ反ルヲ告グルモ亦此ノ如クス。恒ニ施與ヲ好ミ村中窮
乏ノ者ハ之ヲ賑ハス。業ニカトムルモノアレバ之ヲ賞ス。
終リニ臨ムデ遺命シテ曰ク。稻麥三倉急アリト雖ドモ輒
チ糶スルコトヲ得ズ。必ズ新舊ヲ交換セヨ。曰ク三倉ハ以
テ一村ノ饑ヲ濟フニ足ルナリト。其善ク財ヲ理ムルヲ以
テ。毎ネニ施散シテ財常ニ餘リアリシトイフ。

櫻所子曰。谷平ハ貧賤ニシテ魚ヲ販グヲ以テ生ヲ營ムモ
ノ、ミ。卯兵衛マタ賞財アリト雖ドモ固ヨリ道ヲ知リ理
ヲ明カニスルモノニ非ズ。而シテ互ヒニ遺金ヲ爭フ。夫ノ
畔ヲ避クルヲ觀テ。虞芮ノ訟ノ止ミタルコトノ如キ。人口
ニ膾炙スル所ナリト雖ドモ。周室ノ始メ。治上ニ隆リニ。

俗下ニ美ハシキ時ナレバ。亦宜ク此ノ如クナルベシ。近クハ近州ノ馬奴遺金ヲ還シテ其謝儀ヲ取ラザル事ノ如キ。亦人ノ稱讃スル所ナリト雖トモ。近江聖人ト呼バレタル。藤樹翁ノ薰陶スル所ナレバ。亦深ク恠ムニ足ラズ。卯兵衛谷平ノ如キ。太平ノ日ニ生レタリトモ。其風化ノ淳樸ナル。豈周代ノ隆昌ナル時ニ比スベケンヤ。其師父ノ訓誨。固ヨリ藤樹翁其人ノ如キモノ無シ。而シテ其狷潔ナルハ。貧夫ヲシテ廉ナラシムルニ足ル。子輿氏曰ク。豪傑ノ士ハ。文王ナシト雖。臣猶ホ興ルハ。我卯兵衛ト谷平ニ於テモ亦云

日本立志編卷之四終

